港北ニュータウン
今昔物語

人々が集い、暮らし、はたらく街、
港北ニュータウン。
丘と谷戸が織りなす豊かな自然と
そこで太古から生きてきた人々の息吹が
豊かさと安らぎを生む街です。
過去からいま、そして未来へ
人々の暮らしを紡ぎ続けます。



── 美しく安全で快適なまちをつくります ──

UDC URBAN DEVELOPMENT CORPORATION 都市公団

港北ニュータウン 今昔物語

発刊にあたって

まもなく迎える21世紀はどのような世界になるのでしょうか。

２０００年のいま、グローバル化と高度情報化社会、少子高齢化・長寿社会が到来し、そして大量生産・大量消費・大量廃棄型から環境保全・循環型の社会へ、成長社会から成熟社会へと、私たちの暮らしが大きく変わりはじめています。

横浜市が港北ニュータウンの計画を発表したのは１９６５年。それから35年、港北ニュータウンは横浜の副都心として成長し、新世紀に向けた新たな歩みを着実に進めています。

私たちは、都筑の地に誕生した港北ニュータウンを多くの皆様に知っていただきたく、この小冊子を発行しました。

前半は「都市公団のシニア住宅・ボナージュ横浜（仲町台）」友の会情報誌『ボン・アージュ』に福富洋一郎さんによって10回連載された「今昔物語」を保存版にしたもので、後半は「人・街・暮らし」をキーワードに、この街の誕生以前から今日の街までを紹介するものとなっています。

なお、発行にあたっては、多くの方々にご協力をいただきました。

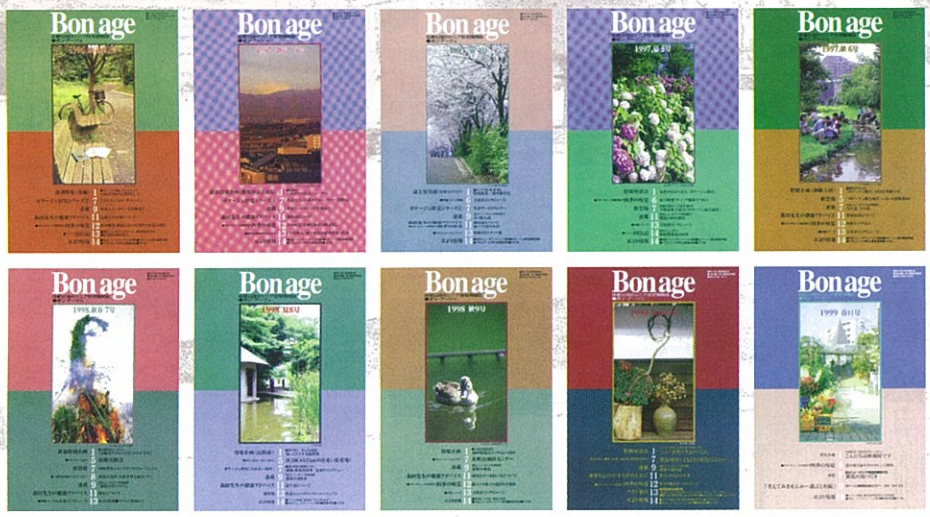
次

1…発刊にあたって
2…今昔物語著者紹介
3…早苗地蔵
5…早渕川物語
7…茅ヶ崎八景
9…都筑の杉山神社
11…昔の道今の道
13…都筑の街づくり 古代から現代へ
15…都筑の湧き水



福富洋一郎

1944年北九州市生まれ
1988年世田谷区から港北ニュータウンに転居
1993年「恩田の谷戸ファンクラブ」に入会（歴史班チーフ）
1994年「早渕川をかなでる会」設立（世話人代表）
会社人間として毎日仕事に追われていたが、1992年頃から港北ニュータウンを散歩しながら、失われつつある港北ニュータウンの歴史と地理を調べて歩くようになる。
地域活動にも興味を持ち鶴見川流域、主に都筑区で「川づくり」や「森づくり」さらには「街づくり」の市民活動に参加。
その他「都筑おやじ学」「都筑フォーラムコミュニケーションクラブ」など所属団体多数。
日本橋の会社に通勤するサラリーマン。
都筑区葛が谷在住。



目

17…都筑の地名
19…都筑の歳時記
21…都筑の街づくり 横浜丘の手
23…港北ニュータウン 誕生と歩み、そして未来
25…人と歴史・文化
27…人と自然
29…人と街
35…人と人
37…人と住まい

港北ニュータウン今昔物語①

●都筑の民話

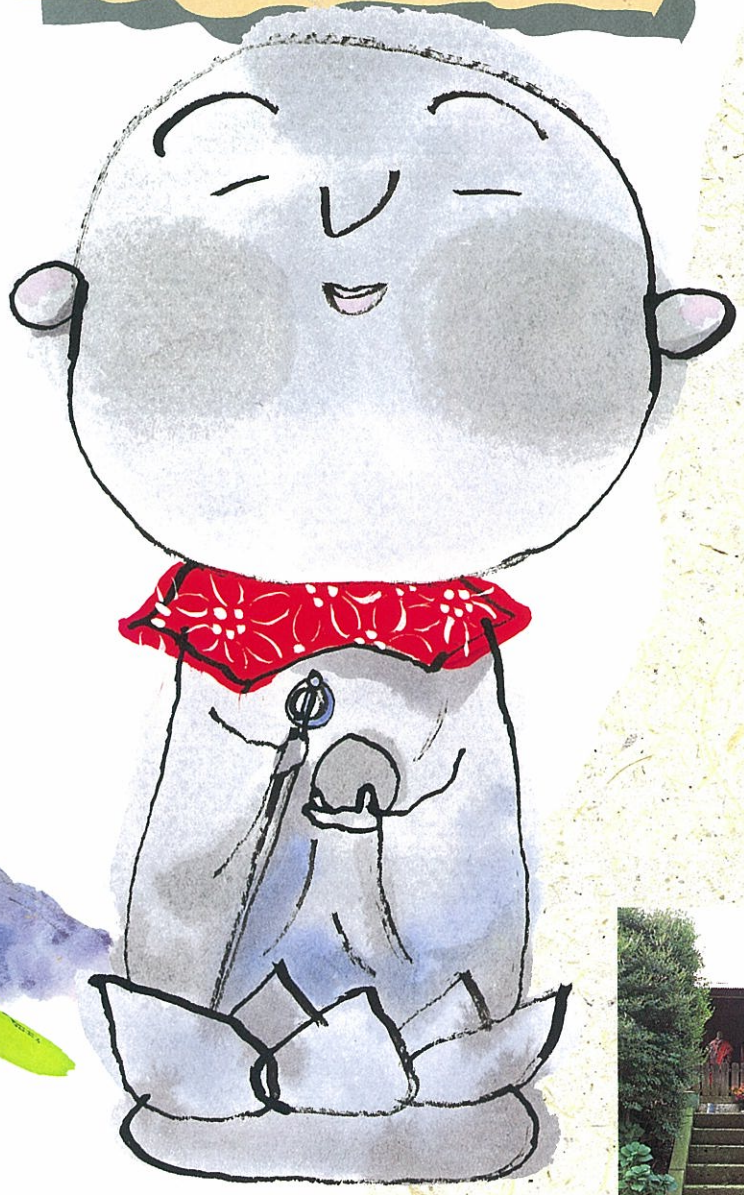
早苗地蔵（さなえじぞう）

都筑区折本町には、人々に今でも語り継がれている悲しい民話が残っています。早苗地蔵にまつわる史実が民話として残っているお話しで、今も早苗地蔵は、地元の人々に大切にされています。

今から460年程前の天文年間の戦国時代のことです。ここ折本町は20軒ばかりのちいさな村でした。村の南の方の低地には、用水が整備されていないため、田畑は毎年干ばつに苦しめられて稲作も思うようにできません。堂ヶ坂下の小庵に了信という坊さんと、つがという娘が住んでいました。村人の苦しみを見かねて、山を切り拓いて村の北側の谷戸の水を引こうと、二人は鍬で用水路をせっせと堀り続けました。

村人はその姿を見て最初はあざ笑っていましたが、了信は屈することなく、雨の日も風の日も休まず掘り続けました。その熱意に動かされて村役人の万次郎がこれに加わりました。さらに14、5人の村人が加わり、最後には村中でこの仕事をやりとげようとがんばったのです。そして翌年の春にはやっと全体の半分程、掘割りが完成しましたが、この時両側の土が崩れてきて、多くの死傷者が出てしまい、了信も娘のつがも圧死してしまいました。その後、了信の意思を継ぎ、村人達の努力によりさらに6年の歳月をかけ遂に完成し







現存する早苗地蔵

都筑の富士塚

富士山は昔から霊山として人々の崇拝を受けていましたが、江戸時代には関東の各地で富士講と呼ばれる信仰団体の活動が盛んになりました。そして富士山に実際に登山して参拝できない人々のために、富士山を模した富士塚が地元に築かれたのです。かつては横浜にも多数の富士塚が残っていましたが、開発のため多くが消えて行きました。しかし都筑区にはいくつかの富士塚が残っています。

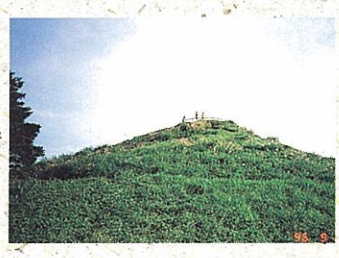
山田富士（やまたふじ）

ヤマダではなくヤマタと読みます。北山田町にある富士塚は驚くほど富士山に似せて作られています。登山道が二つあり、頂上まで登ると噴火口があり、お鉢回りまでできています。現在は、山田富士公園として整備されており、特に桜の季節は絶景です。頂上にある富士山信仰塔や、登山道にある慈悲心に満ちた頭光地蔵立像などは一見の価値があります。



川和富士（かわわふじ）

富士見が丘の町にある川和富士公園には、川和富士と呼ばれる立派な富士塚があります。頂上の展望は大変すばらしく、都筑の丘とよばれた多摩丘陵が一望に見えます。横浜も良く見え、必見のポイントです。このミニ富士は実は2代目で、最初の川和富士は開発のため取り壊されました。頂上にあった浅間大神の碑は、川和八幡神社境内に移されています。



池辺富士（いけべふじ）

赤白エントツが目印の都筑工場（焼却場）の南の池辺農業専用地区にあるミニ富士が池辺富士です。都田中学校裏にも富士塚がもう一つあり、池辺新富士といわれています。毎年6月1日には山開きが行われ、池辺の人々がお囃子の音とともに礼拝をします。塚の上からは横浜港の他に、川和富士と本物の富士山が一緒に見えるのが実におもしろい。



〈都筑に学ぶ会　福富洋一郎氏〉



たのです。北から南へ掘割りをほとばしり出る水を見て、村人達は大喜びをしたことはいうまでもありません。そうして村にも豊かな稲が実るようになったのです。それから100年以上たった江戸時代に、了信親子の功績を讃え、お地蔵様を作り、切り通しの見える丘に安置しました。これが今の早苗地蔵で、早苗を植え付ける前に早苗を供え、秋の豊作を祈っています。

以上が昔から伝わっている早苗地蔵のいわれですが、民話として伝承している間にいろいろお話しの変化があります。仕事を始めたのが、了信親子ではなく、万次郎夫婦と了信だったとか、途中で死亡したのは万次郎と了信で、二人の意志を継いだのは万次郎の妻とつがだったとのお話しもあります。そしてつがは黒髪を切って尼となったともいわれています。いずれにせよ数百年経った現在でも、早苗地蔵に豊作を祈る地元の人々の姿を見ることができます。ただ、せっかく造った用水も今は道路の下に埋められ、もう流れていないのは残念です。近くの真照寺をお訪れた詩人の佐藤惣之助が、この民話を聞き、早苗地蔵を織り込んだ「折本音頭」を作詞しました。その一節は次のようなものです。

ハア　稲で踊れば　黄金が実る
　　早苗地蔵は　稲の神

〈都筑に学ぶ会　福富洋一郎氏〉

都筑区の名前はどこから？

港北ニュータウンが発展を続けるなか、都筑区は平成6年に誕生しました。それまでの港北区、緑区を4分割して、都筑区、青葉区の2つの区をつくり、計4つの区となりました。都筑区の名前がどのようにして決まったか、三つの理由があります。

【第一に】
横浜市北西部一帯は奈良時代から昭和14年まで「都筑郡」とよばれていました。「都筑」という地名が文献にはじめて現れたのは万葉集の中です。この地から遠く西国（九州）へむかった防人が妻にあてた手紙の中で

わが行きの息衝くしかば足柄の
峰延は雲と見とと偲はね

●都筑郡上丁服部於田

（私の旅が嘆かれる時は、足柄の山の雲を見ながら私を偲んでおくれ）

とあります。従って、奈良時代、すでにこのあたりは都筑とよばれていたことが分かります。歴史的に由緒ある地名を将来に向けて大切にしたいという思いから。

【第二に】
奈良時代からの歴史ある地名にちなみ、これからの街づくりが、新しい「都を築く」という区民の総意で進むことを願って。

【第三に】
一般から募集したところ、1万6千以上の応募があり、市民の幅広い支持があった「都筑区」「光区」「港京区」のなかから、「都筑区」が選ばれました。

このように先人の文化を受け継ぎながら誕生した都筑区の名は、これからも大切にされ、親しまれていくことと思います。

早◆渕◆川◆物◆語

港北ニュータウン

今昔物語

港北ニュータウンの中央を東西に流れている早渕川は鶴見川の支流で、昔からこの地域の人々の生活に深く関わってきました。最近の急速な開発に伴い、典型的な都市河川となりましたが、その支流は「グリーンマトリックス」と呼ばれる緑道やせせらぎとして生まれ変わり、また川の水も、昔の清流を取り戻しつつあります。

■早渕川をかなでる会　福富洋一郎氏

「縄文・弥生時代の早渕川」

港北ニュータウンの丘陵地に人々が住み始めたのは約2万年前といわれています。6千年前の縄文時代には、海が3～5mも高くなり、この地にも海が深く入り込んで、早渕川も海に直接注いでいました。今も茅ヶ崎、境田はじめ、あちこちに貝塚の遺跡をみることが出来ます。又、東横線の綱島はその名が示す通り、本当に島だったようです。

センター北駅の近くのある、国の指定遺跡「大塚・歳勝土遺跡」は、早渕川の中流域北岸の台地にあり、弥生時代の竪穴住居が復元されています。ここ早渕川流域は横浜市域で一番賑やかな集落でしたが、早渕川は「暴れ川」の異名があるほど洪水が度々おこるため、稲作は谷戸とよばれる支流の谷間の田んぼで行われていました。

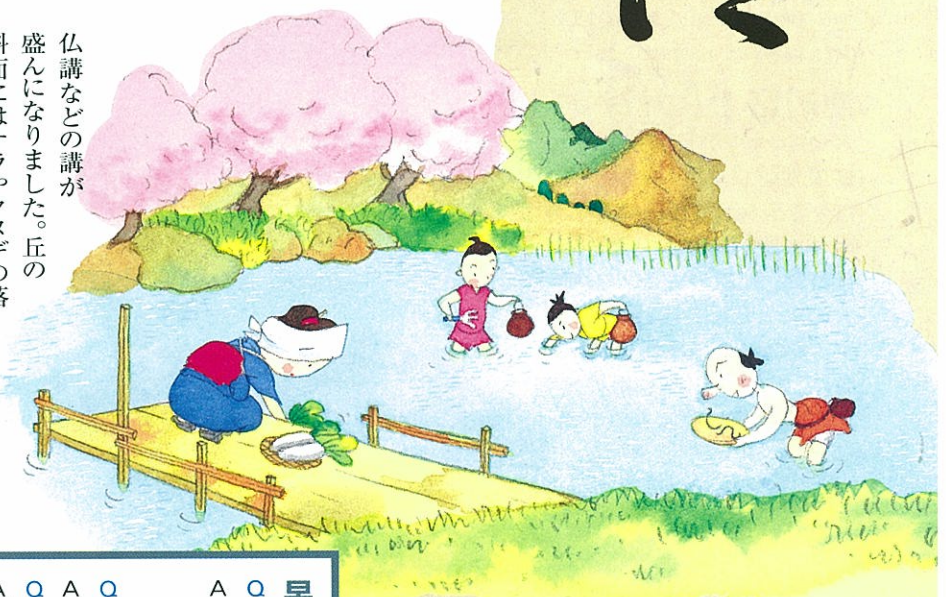
「江戸時代・明治時代の早渕川」

この地は、武蔵国都筑郡と呼ばれ、中央の政治変動に直接巻き込まれることは少なく、平和な生活が続きました。

江戸時代には、旗本や御家人の領地で、大山街道や中原街道が近くを通り、富士講や大山講、念仏講などの講が盛んになりました。丘の斜面にはナラやクヌギの落葉樹の雑木林がつづき、その木を切って農家の人々が炭を作りました。立派な竹林も多く、竹の子の産地としても有名でした。農業を中心に川のコイ、ウナギ、ドジョウ、シジミなど豊かな自然の恵みも食卓を賑わした事でしょう。しかし、早渕川の水利をめぐっては、村々の間で争いが絶えなかったようで、上大棚村と荏田村の大棚堰をめぐる水争いの話しは今も昔話しとして伝わっています。

「最近の早渕川」

早渕川は、その名が示すとおり、早瀬と渕のある、自然豊かな川でした。洗濯や野菜も川で洗ったり、サワガニやシジミもたくさん取れ、川沿いには桜並木があり、春はお花見で賑わいました。



早渕川のQ&A

Q.どこからどこへ流れているの？

A.源流は、青葉区美しが丘3丁目付近の住宅地、下流は、港北区綱島4丁目付近で鶴見川に合流。

Q.川の長さは？

A.総延長約11kmです。

Q.生息する魚は？

A.一番多いのがコイ。50cm以上の大きいのもいます。フナ、モツゴ、ボラ、ウナギ等も多い。水がきれいになるにつれ、一時見かけなかったアユやオイカワも戻ってきました。

Q.川辺で見られる動植物は？

A.鳥や魚の他には、モクズガニ、ザリガニやカエル、カメなどがいます。中流では近くの森から、タヌキが夜に水を飲みにきます。コンクリートの土手ですが、土が溜まってオランダガラシ、ミゾソバ、ヨシ、ガマ等が見られます。チョウやトンボもよくきます。

Q.バード・ウォッチングをしたいのですが？

A.よく見かけるのは、セキレイ類やサギ類、シギ類、カルガモです。春にはツバメ、冬にはコガモ、マガモ、オナガガモ等の渡り鳥が羽を休めています。運がいいとカワセミも見られます。

横浜七福神めぐり

「ボナージュ横浜」から行ける、新春にふさわしい横浜七福神をご紹介します。緑多いのどかな風景も味わうことのできる七福神めぐりは、初詣に限らず四季いつでも楽しめるコースです。





しかし、大雨が降るとすぐ洪水になるため、付近の住民は困っていました。

都市化が進むと、街に降った雨が、地中にしみ込まずに一気に川に流れ込むため、さらに洪水対策が必要になり、そのため昭和44年から河川改修工事が進められ、昭和57年に完成しました。そのほとんどがコンクリートの都市河川となってしまいましたが、今でもたくさんの自然が残され、支流のせせらぎや緑道を多くの人々が散策し楽しんでいます。

①布袋尊

東照寺（綱島駅下車）綱島駅近くにある、大量（大きな度量）と、堪忍、和合を授けてくださる神様。徳川初期の創建といわれる寺。布袋尊は中国に実在した禅宗の名僧だといわれています。大きな袋から金銀財宝を与え、吉運を授けたといわれます。



②毘沙門天

蓮勝寺（菊名駅下車）日本三毘沙門の随一といわれ、名工運慶の作と伝えられます。人間に必要な威光と勇気を授け、財宝の神様といわれます。開山当時、このあたりは野菊の花が全山咲き乱れ、この世の浄土のようだったといわれます。



③恵比寿大神

西方寺（新羽駅下車）鯛をかかえたにこやかな姿は恵比寿顔といって福相の第一で清廉を意味します。出雲の国造の神の大国主の命の御子とも伝えられています。この寺には重文ほか多数の文化財があります。1月には境内の蝋梅が黄色の花を咲かせ、芳しい香りが漂います。



④弁財天

菊名池畔妙蓮寺境外社（妙蓮寺駅下車）七福神中、唯一の女の神様で愛敬を示し、芸能の才と財宝を授け、交通安全についての御守護も強いといわれます。弁財天は一般には琵琶をもっていますが、こちらの神様は右手に剣をもち、人々の迷いを切り払い、左手の宝珠は召福の玉として財産授与、つまり商売繁昌に恵まれるといわれています。菊名池端にあり、名刹妙蓮寺もすぐ側です。



⑤大黒天

正覚院（新横浜駅下車）当代30世に及ぶ古い歴史のある寺で、ここには有福と糧食を司る神様の大黒天が奉られています。大きな槌を持って尊高を集めています。福の神の代表として知られています。境内のけやきの木で作った大黒天の中に、由緒ある真像を納めてあります。



⑥福禄寿神

興禅寺（綱島駅よりバス）この神様は頭の長いのが特徴で良い知恵を示唆し、学問と福徳の神様です。お寺の本堂には多数の古仏像が安置されていて、その中の十王（閻魔大王）像は横浜歴史博物館にレプリカとして置かれています。横浜市名木古木指定のモミジ、キササゲ、イチョウなどの木があります。



⑦寿老神

金蔵寺（日吉駅下車）長寿の神様。歴代の住職は喜寿、米寿を保ち天寿をまっとうしているのはその徳を得ているといわれます。本堂、鐘楼には徳川家康、秀忠公が寄進された名鐘、隠れキリシタンの石灯籠等人目をひくものが多く保存されています。庭も広く、天台宗の名刹です。



港北ニュータウン

今昔物語

茅ヶ崎八景

江戸時代のその昔、茅ヶ崎八景とうたわれ、絵のような景勝地がありました。「今は幻」の茅ヶ崎八景をご紹介いたします。

■早渕川をかなでる会　福富洋一郎氏

「茅ヶ崎」というと多くの人は湘南の茅ヶ崎市を思い浮かべるかもしれません。港北ニュータウンにも茅ヶ崎という町名があり、歴史と伝統を今に伝えています。現在、センター南駅や都筑区役所の庁舎がある周りは、昔は茅ヶ崎村と呼ばれていました。北には早渕川が流れ、その周辺に田んぼが広がり、その支流の荒磯川を南に上がって行くと、雑木林の谷戸に行きつき、自然豊かな村でした。江戸時代の終わりの頃、この地を愛した岸宇作という人が、近江八景や金沢八景になぞられて茅ヶ崎村の景勝地八ヶ所を選定しました。大正時代までは人々の口にものぼり、実際の景色を楽しむことができました。今は新しい町に生まれ変わり、「幻の茅ヶ崎八景」になってしまいましたが、まだ当時のおもかげが残っている所もあります。

①「城山の秋の月」

城山とは茅ヶ崎城のことでセンター南駅からすぐ東側にあるこんもりとした山全体が、実は中世の傑作といわれた茅ヶ崎城です。近世の城と違って天守閣や石垣はありませんが、空堀や曲輪は残っています。歴史公園として整備され、市民の憩いの場となる日もそう遠くはないでしょう。茅ヶ崎という意味は、チガヤという植物が生える小高い所の事を意味するので、早渕川につきでた小高い丘をいいます。このあたりは、縄文時代は海でしたから、当時の城山は海に突き出した岬でした。この城山を背景に、中秋の名月が登って行くさまは、今なおすばらしい迫力があります。また密かにささやかれる茅ヶ崎城に埋蔵金があるというウワサは、私達のロマンをかきたてて止みません。

②「谷（やと）の中の蛍と堅田（かただ）の落雁（らくがん）」

今はもう見ることが出来ない茅ヶ崎八景の一つです。荒磯川と早渕川に囲まれた水田地帯の場所は、夏は蛍、秋は刈り入れの後は落雁の名所でした。蛍は戦前までは、それは見事な明るさですごいものだったそうです。払っても払っても追いかけてくる何十万という蛍が飛び交うさまは、多くの見物人がくるほどでした。現在は数百頭を見るだけになってしまいました。しかもこの蛍は、市



●今は幻の「茅ヶ崎八景」



茅ヶ崎八景として村人たちが自慢してきた風景も、100年の歳月を経て今ではすっかり姿を消し、港北ニュータウンとして開発が進んでいます。センター南駅とセンター北駅付近は都筑区総合庁舎を中心に、シンボル広場、総合病院、デパート、警察署、郵便局、市民ホール、公園、ビジネスビル等、大規模な商業・業務施設・タウンセンターの建設が進んでいます。完成すると21世紀にむけた首都圏でもっとも魅力ある、都市空間に変貌していくことでしょう。新しい都筑区の名所となる日も近いといえます。

横浜市歴史博物館

センター北駅から徒歩5分のところに平成7年にオープンした、横浜市歴史博物館があります。ここは「ふるさと横浜」の歴史を楽しく、分かりやすく学べる、横浜に初めて誕生した歴史博物館です。横浜は古代より関東の陸上、海上の入口として重要な役割を担ってきました。常設展では先土器時代から現代まで、2万年にわたる生活の歴史を展示、ビデオやコンピュータなどで知ることが出来ます。体験学習や歴史講座などもあり、もちろん都筑区の歴史も知ることができます。また、博物館に隣接して国指定史跡「大塚・歳勝土遺跡公園」があります。大塚遺跡は、弥生中期にこの地方で稲作を始めた人々のムラの遺跡です。歳勝土遺跡では、大塚遺跡で生活していた人々の多数のお墓が発見されています。



大塚・歳勝土遺跡公園



横浜市歴史博物館（センター北駅徒歩分5分）



民が水槽で育てた幼虫を源流に放流したものです。蛍は清らかな流れにしか棲息しませんので、現在では子供達が早渕川の掃除をして、再び蛍が発生するように努力をしていますが、まだ回復の兆しはありません。清らかな流れが蘇り、カワニナ等の蛍のエサが自生するとあながち蛍の復活も夢ではないでしょう。再び、飛び交う蛍の群を見たいものです。

③「清水の夕照（せきしょう）」

下耕地をうるおす荒磯川は大原の農業用水地から始まり、この水を村人は大切にしていました。秋は夕照の紅葉が美しく池に映え、その様子は絵となり、歌となりました。

④「境田の暮雪（ぼせつ）」

矢崎橋から境田橋の間が境田地域と呼ばれていました。昔は年に2、3度はこのあたりも大雪になり、道行く人も雪に悩まされながら茅ヶ崎村から荏田村へ行き交いました。日暮れに夕餉の煙を消しながら降る雪はもの哀しくも美しく、ここで見る暮雪は特に美しいといわれました。

⑤「四五六峠（しごろく）の夜の雨」

自性院から茅ヶ崎峠へいく峠道。この寂しい峠で夜の雨に会うと一層寂しさが増しました。峠の樹木が緑一色になる梅雨明けは緑が目に染みてまぶしいくらいでした。

⑥「正庵（しょうあん）の一本松」

四五六峠道に樹齢数百年の黒松があり「正庵の一本松」と呼ばれていました。古木で松食い虫にやられた為、切り倒したところいきなり松から血がふきだしたといわれます。松の洞にたくさんの蛇が冬眠していたのです。

⑦「大塚の青嵐（せいらん）」

大塚原とは東方、勝田、茅ヶ崎の村境にあり、かっては雑木林が続いていました。青葉の頃に吹く強い風がこのあたり一帯をつつむと、雨上がりの日には霞が立ちこめ絵のようでした。

⑧「観音の晩鐘（ばんしょう）」

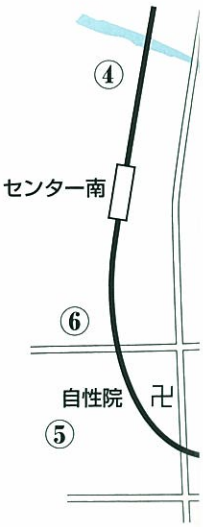
中耕地の観音堂（今のセンター南駅近く）は西国第33番小机領第19番の札所です。村人に刻を知らせる鐘の音は遠く荏田、勝田、牛久保の方にまで鳴りひびきわたりました。



茶屋「桜屋」想定復元模型



歴史劇場の案内役



港北ニュータウン

今昔物語

都筑の杉山神社

■早渕川をかなでる会　福富洋一郎氏

港北ニュータウンが広がる都筑の丘を散歩していると、たくさんの神社を見かけますが、杉山神社という名称が多いことに気づかれたことはありませんか。都筑区内だけでも、大熊・勝田・茅ヶ崎・大棚中川・池辺・佐江戸の6ヶ所に杉山神社があります。杉山神社は全国に49社あるのですが、そのほとんどが、横浜市の北部の鶴見川と帷子川の周辺に位置しており、地域性のある神社です。

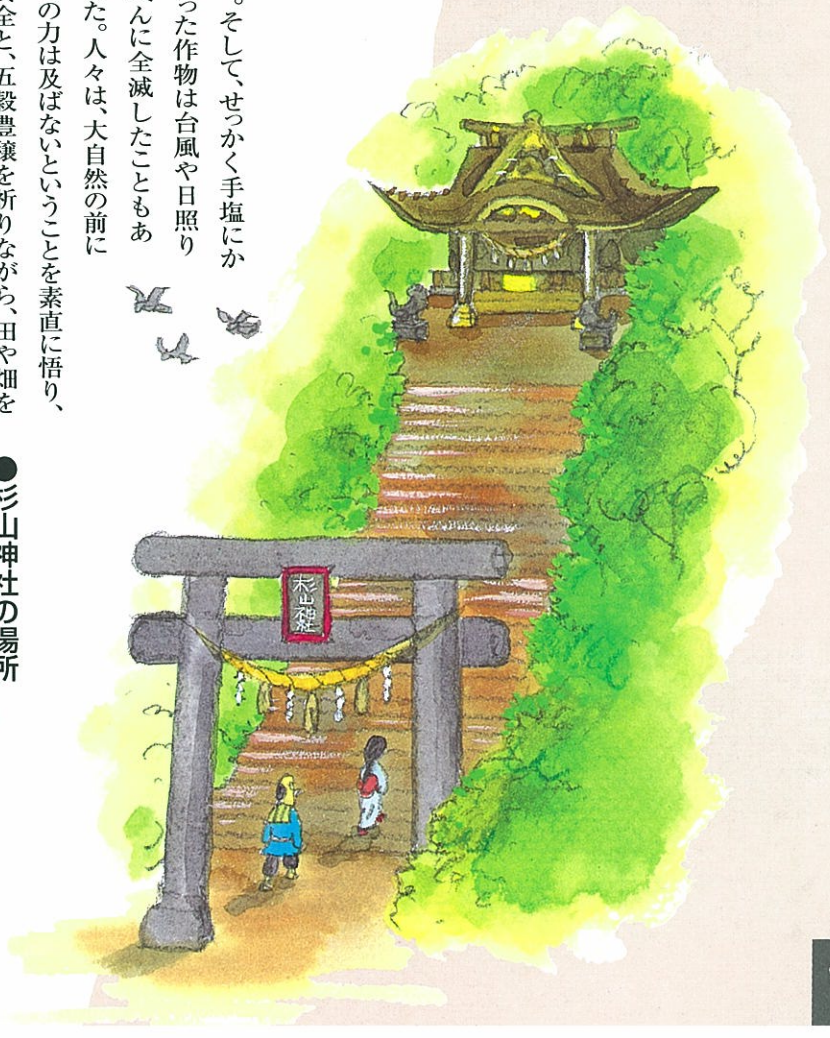
【地域の暮らしと神様】

日本人の生活と神様とは、大昔から深く結びついていました。都筑に新しく引っ越しされた方々から、初詣はどこに行けばよいのか、自分の住んでいるところの神様、つまり自分の鎮守様はどの神社なのか質問を受けることがよくあります。なぜ、私達は神様に祈るのでしょうか。都筑の丘に人が住み始めたのは2万年前位からといわれており、私達の祖先は山や川や森には神様が住んでいるとして、大切にして敬っていました。月の出ない晩は真っ暗な闇の中で本当に心細かったに違いありません。そして、せっかく手塩にかけて作った作物は台風や日照りでいっぺんに全滅したこともありました。人々は、大自然の前には人間の力は及ばないということを素直に悟り、家族安全と、五穀豊穣を祈りながら、田や畑を一生懸命耕やして来たことでしょう。そして、自然や生き物と共存しながら、山里で静かに暮らしてきました。

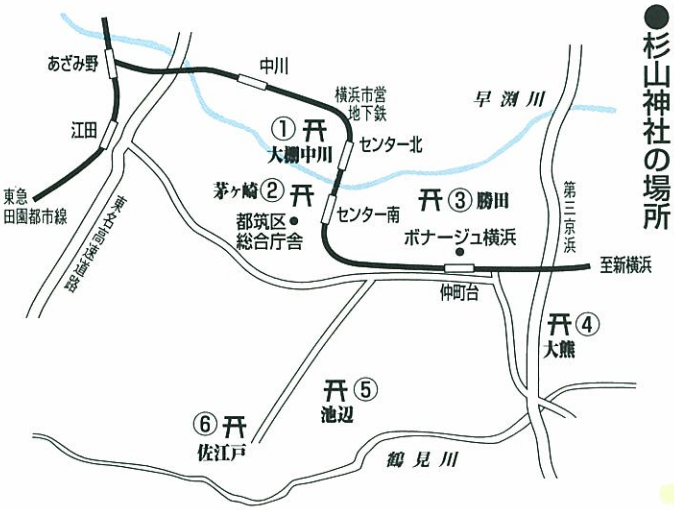
　今でも家内安全を守る神様の祠が、敷地内にある家をみかけます。また、村々には、村人の生活を守るための神社が建てられました。都筑の丘の杉山神社もその一つと考えられます。

【杉山神社の不思議】

杉山神社はいつ頃から建てられ、また、なぜこの地域に集中しているのでしょうか。実はまだ正確なところは分かっていないのです。茅ヶ崎の杉山神社（センター南駅から徒歩5分）には、西暦674年秋に、千葉県の安房郡にある安房神社を祀っていた忌部氏の一族が、東京湾を渡って鶴見川から川



●杉山神社の場所



手作りミュージカル第2弾「不思議の森の三日坊主」この11月上演!



舞台装置の模型

歴史ある港北ニュータウンでは、古き良きものを残しながら、新・旧住民たちの手でいろいろな文化活動が行われています。その中の一つ、現代の新しいお祭りの型として手づくりミュージカルがあります。

'95年、都筑公会堂落成記念として、上演したオリジナルミュージカルが好評を博し、その第2弾として、公募作品「不思議の森の三日坊主」がこの秋に上演されます。11月23・24日の公演にそなえて、練習にもますます熱が入っています。

参加者の職業もさまざまに、出演者はもちろんのこと、大道具、小道具、衣装、チケットの販売までボランティアスタッフで手づくりで行っています。先日は都筑区民ホールで舞台装置の模型の公開が行われ、高い関心を呼びました。

ストーリーは都会っ子の「ひろし」が森の中で400年もの間、ドラゴンの呪いにかけられた少年少女達に出会います。その呪いを解くために自分を犠牲にし、人の為役立つ「ひろし」の戦いぶりやいかに!

劇中劇には、人形浄瑠璃の実演もあり、小学生から大人まで総勢60余名が、出演する感動を呼ぶミュージカルです。

●問い合わせ先 Tel&Fax045-941-3608（岡本）



ミュージカル練習風景



ミュージカル練習風景



沿いに早渕川に入植して、現在の地に杉山神社を興したという伝承が残っています。当時の交通は舟が中心だったと思われますので、鶴見川と帷子川の川沿いに杉山神社が多い謎も、これで説明がつきます。しかし、元々の農耕集団の氏神様が統一されて造られたという説もあります。さらに、杉山神社の本社はどこかの謎が解けていません。平安時代の延喜式という神名帳には、「武蔵野国都筑郡には式内社と呼ばれる格式のある神社が一社あり、杉山神社という」とあります。これがどこの杉山神社なのか、郷土史家の間では邪馬台国の位置探しのような論争が行なわれています。皆さんも杉山神社を訪れ、昔の風景を思い出しながら、昔の人々に想いを馳せてはいかがでしょうか。

【今と昔のお祭り】

神社のことで忘れてならないのがお祭りです。多くの杉山神社では、今でも地元の方々が御神輿をかついで町を練り歩きます。池辺町祭りでは「花篭の舞」が有名です。

港北ニュータウンでも、夏祭りが盛んです。荏田南小学校の子供神輿は、お父さん達の手作りですし、また、昔からのお神楽も楽しめると同時に、区民の手作りによるミュージカルの公演や都筑区民まつりなど、まさに都筑は今と昔が調和した「ふるさとづくり」の真っ最中です。



大棚中川　杉山神社①



茅ヶ崎　杉山神社②



勝田　杉山神社③

港北ニュータウン

今昔物語

昔の道 今の道

■早渕川をかなでる会　福富洋一郎氏

横浜市の北部丘陵地帯は、昔から「都筑の丘」と呼ばれ、人々が行き交う街道が発達していました。古代や中世には、古東海道や鎌倉街道が走り、近世には中原街道や大山街道が賑わいました。現在も、東名高速や第三京浜等の幹線道路が丘を横切っています。中原街道はまだ現役として健在ですし、鎌倉街道や大山街道も往時の名残りを留めている所があります。



【古東海道と鎌倉街道】

昔、東海道は田園都市線の辺りを通っていた、と言ったら驚かれる方も多いでしょう。歴史的にみると、この地の武蔵国は、東山道（中山道の旧称）に属していましたが、771年に東海道に編入替えとなり、都筑郡の役所が位置していた江田駅の近くの長者原遺跡の付近に、相模の国から武蔵を通り抜ける古東海道が走っていたそうです。今の東海道が賑わいをみせるのは江戸時代からなのです。

また、1192年、源頼朝が鎌倉に幕府を

大塚・歳勝土遺跡公園



横浜市歴史博物館 都筑民家園（旧長沢家住宅）

横浜市営地下鉄「センター北駅」のすぐ側に横浜市歴史博物館があります。ここは、先土器時代から現代までの横浜の歴史を学べる博物館で、常設展のフロアには江戸時代に東海道を旅する人々が休憩をとった茶屋「桜屋」（想定復元模型）等も展示され、人と道とのかかわりを知ることができます。

博物館に隣接した「大塚・歳勝土遺跡公園」内に、江戸時代の民家「旧長沢家住宅」を復元した都筑民家園があり、これは都筑郡牛久保村（現在の都筑区牛久保町）にあった旧家を移築したものです。

長沢家は江戸時代村方三役の名主役や組頭を勤めていたことがありました。園内には主屋（木造平屋建・寄棟・茅葺）、馬屋があり、庭

開いた後、諸国の御家人が「いざ鎌倉」と駆けつける為の道が何本も鎌倉を中心に整備されました。

このうち「中の道」が、たまプラーザ駅付近から、荏田町や川和町を経由して、真っ直ぐに南へ延び、その延長先は鎌倉に向かっています。道幅はやっと2m位で、騎馬と二人が通れる程の狭いものでした。川和町付近には、当時の雰囲気漂う細い古道が残っています。



【中原街道と大山街道】

「ボナージュ横浜」のある仲町台駅の西側を、北東から南西に走る道が中原街道です。所々道幅を広げたり、バイパスを作ったりして、現在でも幹線として使用されており、中原街道の名称も健在です。江戸と平塚の中原を結ぶ街道は、徳川家康が鷹狩りによく使ったそうで、東海道よりも直線的で短いため、急ぎの旅人や、炭や野菜等の生活物資の運搬に大活躍でした。昭和30年代の初め頃まで、この辺の農家では、東京の大田区や港区方面まで牛車で「肥やし」を取りに行ったそうです。東山田の道中坂は急坂で、「肥やし」をひっくり返さないよう苦労したと、朝市のおじいさんが語ってくれました。

現在の国道246号沿いに、縫うように大山街道が走っていました。東京の赤坂と南足柄市矢倉沢とを結ぶ街道で、「矢倉沢往還」とか「相州街道」とも呼ばれていました。

今は開発によって道はほとんど消滅しましたが、宿場のあった荏田や長津田に石の常夜灯が今も残っています。1831年、渡辺華山がこの街道を旅して、得意のさし絵を付けた「遊相日記」を残したので、当時の面影を偲ぶ事ができます。

荏田宿にもう一息の所（現在の中川3丁目）に老馬鍛冶山不動尊（ろうばかじやまふどうそん）があり、本堂の下には水が滝のように湧き出ています。ニュータウンの開発によっても枯れることがなかったこの湧き水は、霊泉の滝と呼ばれ、きっと江戸時代の旅人の喉を心地良く潤したことでしょう。

【現在の道】

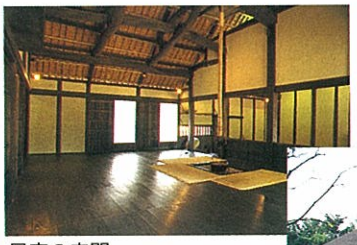
この都筑の丘には、現在も東名高速や第三京浜を初めとする幹線道路や、びっくりするほどの太い生活道路が走っています。計画的にインフラの整備からニュータウンの街づくりに取り組んだ成果と思われます。また、道は決して車のためだけのものではありません。都筑区内に縦横に走るグリーンマトリックスと呼ばれる15kmの小道は、道沿いに小川が流れ、車を心配することなくゆっくりと自然を楽しみながら散策するのに最適です。所々、公園と一体となって整備されている道が延びています。ただ、せっかくの散歩道も大切にしないとすぐにゴミで汚れてしまいます。

最近、住民が自主的にクリーンアップする姿をよく見かけるようになりました。開発と自然が調和し、便利さとやすらぎとが共存する街を目指して都筑の丘に新しい息吹きが聞こえてくるようです。

移築された民家とその室内

民家の土間





民家の広間



民家の主屋と馬屋

や池などを配し、当時の農村の雰囲気を作っています。主屋の中は屋格の高さをあらわす、ナカノマ、オク、ヒロマ、土間など広々とした空間と太い梁が屋根の重さをささえ、風雨から守ってくれた様子がよくわかります。

最近、都筑民家園愛護会ができ、地元のボランティア達の協力によって、様々なイベントが企画され好評です。「お月見ライブ」、「うどんづくりと都筑の今と昔」など誰でも参加、楽しむことができます。民家園をますます活性化させて地元の方達に親しんでいただき、歴史ある文化を残していきたいと頑張っています。ぜひ、一度お訪ねください。

●お問い合せは
都筑民家園愛護会事務局（月曜休日）
Tel.&Fax.045-594-1723

港北ニュータウン 今昔物語

都筑のまちづくり

■早渕川をかなでる会　福富洋一郎氏



横浜市の北部、都筑・青葉・緑区周辺は、都筑の丘と呼ばれる丘陵地帯で、鶴見川支流によって削られた谷（この辺りでは谷戸という）が発達し、自然豊かな土地です。丘の上には大昔から多くの人々が住み、村や町を作り、穏やかな暮らしを続けてきました。そして今、更に多くの人々が移り住んできて、明るいまちづくりが着々と進んでいます。

【縄文・弥生時代の都筑】

人々が都筑の丘に住み始めたのは、約2万年前からです。都筑区には、縄文・弥生時代の「遺跡のメッカ」と呼ばれるほど、多くの遺跡が発見されました。特に、早渕川沿いの大塚・歳勝土遺跡公園と、公園に続く横浜市歴史博物館を訪れると、横浜周辺の歴史が、この丘陵地から始まったことが良く分かります。遺跡公園には弥生時代の環壕集落が何軒も復元されており、そこにたたずむと、まるでタイムマシンに自分が乗って来たような錯覚を覚えます。しかし、背景には明るく近代的な高層住宅が立ち並び、今昔のコントラストにはっとさせられます。まだ見ていない方は「西の吉野ヶ里、東の大塚・歳勝土」とも言うべき遺跡を、ぜひお訪ねください。（センター北駅から徒歩5分）



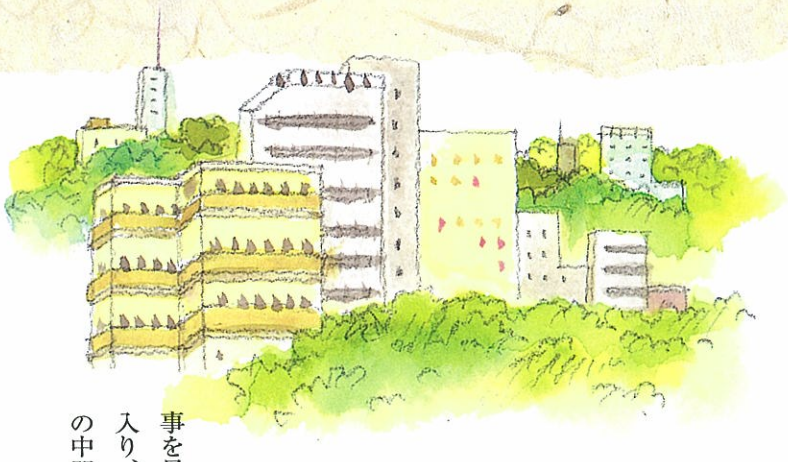
いよいよ人気が高まる手作りミュージカル



都筑区総合庁舎落成記念ミュージカルとして平成7年上演され好評を博した、「北極星を探して」に続いて市民手作りミュージカル第2弾「不思議の森の三日坊主」が、昨年の11月23・24日の両日、3回に亘って上演されました。これはヨコハマ・都筑ミュージカル制作上演実行委員会が中心となって平成8年4月から準備されてきたものです。

「ミュージカルの制作、上演することを通じて、輝く人の輪を広げ、感動する心と夢をいつまでも持ち続ける。」を合い言葉にオリジナル作品を制作、上演し続けて都筑区の文化として根付かせようというものです。出演者、原作、脚本、音楽、大道具、衣裳、チケットの販売、PR等々、全て小学生から大人まで世代を超えた総勢百余名のスタッフの手で行われました。

当日は会場の都筑公会堂には早々と家族連れを初め、たくさんの人の列ができました。受付では上演ミュージカルのCD、テレホンカード、Tシャツも販売され、公演は座席が足りず補助席が出たほど。



【都筑の地名の由来】

この地を都筑と呼ぶようになった時期とその由来については、今となってははっきりしません。しかし、万葉集には、都筑郡の農民が防人として九州へ赴く時に歌った夫婦の和歌の中に都筑という地名が既に残っています。奈良時代には、都筑郡の郡役所（郡衙（ぐんが）という）は、江田駅の西側の東名高速道路沿いにあったことが解っています。（長者ヶ原遺跡）

【鎌倉時代から明治時代の都筑】

ここが歴史的にも由緒あることは、鎌倉街道（中の道）・大山街道・中原街道や、茅ヶ崎・荏田・小机・榎下城などの中世の城跡が、今も残っていることで伺えます。政治・文化の中心地であった鎌倉や江戸から少しはなれた周辺地域として伝統的に農業が盛んでした。雑木林や田畑が多く、食料の他に竹や炭の産地として比較的安定した生活が営まれていました。ただ、鶴見川が暴れ川という異名をとっていたように、自然条件は厳しかったようです。今でも富士信仰の象徴である富士塚が、南山田や池辺に残り、どんど焼き・虫送り・念仏講や地蔵回りなどの伝統的行事を見ることができます。明治に入り、東京・横浜・八王子の大都市の中間地域として都筑郡が再編成され、川和町に郡役所が置かれました。都筑郡は昭和14年、横浜市に再編成され港北区となり、その後昭和43年、緑区が分離されました。

【横浜市のニュータウン時代】

田園風景一色だった都筑の丘にも、昭和30年代に入り、田園都市線の開通とともに、新しい街並みが建ち始めました。また、横浜市の六大事業の一つとして港北ニュータウン構想が打ち出され、住民参加のまちづくりが進みました。ニュータウン内に15キロにわたって続く緑道（グリーンマトリックス）に見られるように、自然環境と開発が調和した都市が生まれつつあります。地下鉄3号線が開通し、東京に目を向けていた人々にとって、港ヨコハマが、ぐっと近くなりました。

【都筑区の誕生と新しいまちづくり】

平成6年に港北区と緑区が再編成され、都筑区の地名が55年ぶりに復活しました。新生都筑区は、伝統産業である農業と鶴見川の近代的工場と、丘の住宅とが調和したバランスの良い都市です。横浜市の中で、平均年齢が一番若く（34.8歳）、人口の増加率が一番大きな区で、現在13万人の人口が、2010年には倍増となる見込みです。今、都筑区は丘の緑や川辺の豊かな自然環境を生かし、「いた人」「きた人」が共に協力し合いながら、住み良い「いいまちづくり」の真最中です。皆さんも一緒に参加しませんか。







物語は、弱虫のひろしが亡くなったお父さんのふるさとのお寺に三日坊主修行に出かけ、その森で400年もの間ドラゴンの呪いによって、生と死の間をさまよっている少年少女に会い、呪いを溶いてあげ、友情が芽生えるというファンタジックストーリー。小さい子ども達のほほえましい演技や、劇中には人形浄瑠璃も織り込まれ、生命の大切さ、生きていることのすばらしさを歌い上げ、感動溢れるミュージカルの上演で拍手が鳴り止みませんでした。

●取材・ボナージュ横浜友の会編集部員

港北ニュータウン

今昔物語



都筑の湧き水

■早渕川をかなでる会
福富洋一郎氏

横浜市の北部、都筑区、青葉区周辺の丘陵地帯は、昔から谷戸と呼ばれる細長い谷間が発達していて、起伏に富んだ自然豊かな地域です。開発が進んだ現在でも、緑の濃い谷戸には、雑木林や田んぼが残っています。そこには、鶴見川の支流の最源流としての湧き水と小川が、生き物の賑わいとともに身近な里山の自然を形作っています。今回は、湧き水の昔を尋ねてみましょう。

昔の湧き水

谷戸の湧き水は「絞(しぼ)りの水」とも呼ばれ、谷戸の奥から自然に湧きでています。その水が集まって小川となり、田んぼの用水として大変貴重なものです。昔の人は水量が天候に左右されず、安定的に水を供給するために「ため池」を作りました。現在も田んぼに「ため池」を作っているところもありますが、早渕川の流域の多くは、地下水をポンプで汲み上げて利用しています。また、湧き水は生活用水としても必要欠くべからざるものでした。



裏山の湧き水地点から流れ出た水は竹をくり貫いた樋で家の中まで引き込み、水瓶に溜めて使ったりしました。飲み水、野菜洗い、食器洗いばかりでなく、洗濯や風呂にも活用されました。今では殆どが水道に切り替わりましたが、なおまだ一部の家で残され、使われているのに出会うと感激します。

湧き水は、降った雨が地下にしみ込み、濾過され、自然に地中から湧いて出たものです。実際に水質調査をしてみますと、汚染されていないきれいな水であることが解ります。

開発と湧き水

このように、都筑の丘で至る所にみられた湧き水も、昭和30年代から始まる急激な開発の波の中で、水が枯れたり水量が減ってしまいました。昨年、横浜北部の市民協力団体のネットワークで作られた「横浜北部湧き水探偵団」が、北部4区(青葉区・緑区・都筑区・港北区)で湧き水地点を調査したところによると、まだ開発されていない地域を中心に湧き水地点を180ヶ所確認できました。83年から85年には確認されていたのにもかかわらず、今回確認できなかった地点は、95ヵ所にものぼっています。それでもまだ湧き水として発見されていない箇所もあると思われますので、実際には探すと、もっと湧き水地点が多くあるのではないかと思われます。

湧き水を活かした街づくり

港北ニュータウンでは、街づくりの基本方針を決めるに当たり、豊かな自然環境に親しん

GREEN MATRIX SYSTEM

港北ニュータウンのグリーンマトリックスシステム

グリーンマトリックスと湧き水

現在も湧き水はグリーンマトリックスの中に活かされています。鴨池公園には、市民の努力によってトンボの繁殖池となった、湧き水を利用した池があります。茅ヶ崎公園にある豊かな水量の御手洗池（保護区のため入れません）の湧き水は公園のせせらぎへ供給されています。また、オープンしたばかりの都筑中央公園の大池は湧き水と雨水を有効利用した所です。念仏講で知られる老馬鍛冶山不動尊の湧き水は、昔も今も霊泉として親しまれています。



①鴨池公園



②都筑中央公園　大池





③老馬鍛冶山不動尊



④茅ヶ崎公園　御手洗池

できた地元の人々の意見を聞いたところ、「雑木林の保全とともに、小川のせせらぎと水源となる湧き水の沼を残して欲しい」との声が強く上がりました。

そこで街づくりに使われたのが「グリーンマトリックス」という手法で、ふるさとを偲ばせてくれる社寺、石仏、富士塚等の歴史的遺産と道路、公園、河川、学校などを体系的に融合させるなど、緑の自然環境を最大限に活かして地域全体の空間構成を決める街づくりが設計されました。

昔の谷戸沿いの樹林地や、湧き水の沼を活かしたひとつながりの緑が、緑道や、歩行者専用道路でネットワークされ、実に14・5Kmも続いています。その幅は10mから100m以上ある所もあり、その中には自然の湧き水を使った小川が全長7・8Kmも整備されています。昔、見られた生き物はまだ全種類戻って来てはいませんが、トンボやアメンボ、小魚のすみかになっていて、子ども達の格好の遊び場所になり、また、道行く人の目を楽しませてくれます。私達が大切に使うことによって、清らかな流れにしか棲息しない蛍の復活も夢ではないでしょう。

港北ニュータウン

今昔物語

都筑の地名

■早渕川をかなでる会

福富 洋一郎氏

新しいまち、都筑区の最近の変貌には、目を見はるものがあります。センター南・北駅を中心としたタウンセンターには、大きな店が建ち並び、日に日に賑やかになっています。その中で、昔から変わらぬ古いものがあります。その一つが地名です。地名は地域の歴史や文化に密着不可分のものです。地名の由来を学ぶことにより、「ふるさと都筑」を知ることができます。

「都筑の区名のいわれ」

平成6年横浜市に都筑区が誕生しました。この地名は歴史的に由緒ある古いもので文献に初めてでてくるのは万葉集です。防人（さきもり）として遥か遠い九州に派遣される都筑郡の農民が別れを悲しむ夫婦の歌を残していて、向かう道の遠さを考えると現在の単身赴任で福岡に向かうサラリーマンとの違いに思いを馳せます。

1200年以上続いた「都筑郡」は昭和14年港北区と変わり、その名も消えましたが新しい区の誕生で、55年ぶりに公募により選ばれ復活しました。

美しい丘陵と谷戸が続いていることから「つづき」となったといわれます。

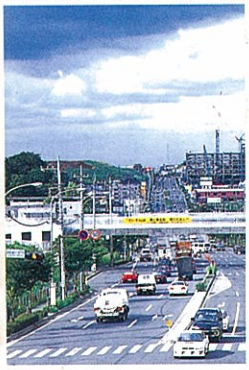
これからの街づくりは、この自然豊かな都筑の丘の歴史を活かしてゆくものであって欲しいと思います。

「仲町台周辺の地名」

現在の地下鉄仲町台駅は、完成するまでは仮称で大熊駅とよばれていました。以前はこの付近は大熊町の一部でした。仲町台という地名は大熊町の字名（あざめい）「仲町」に高台ということから「台」をつけたものです。大熊仲町遺跡が長福寺の近くにあります。大熊の地名はクマは「曲（くま）」で大熊川の流れが大きく曲がっていることから付けられ、動物の熊とは関係ないとの説が有力です。明治22年、大熊・東方（ひがしがた）・川向（かわむこう）・佐江戸（さえど）・川和・折本・池辺（いけのべ）の7村が合併して都田（つだ）村ができました。現在は、学校名や、連合町内会名で都田という地



タウンセンターの幹線道路
（茅ヶ崎中央）
都筑区役所と港北東急百貨店S.C.の間





荏田宿常夜灯

中川駅（地下鉄3号線）



地名の散歩

地名を見ながら散歩を楽しんではいかがでしょうか。きっといろいろな発見があると思います。



名が残っています。桜並木という新しい地名も、実は東方町の「サクラナミ」という昔の地名に「キ」をつけてできたものです。せせらぎ公園のある新栄町は、もともと隣り町の新羽（にっぱ）町の「新」と、新しくできる町が「栄える」ようにとつけられたものです。

「江田と荏田」

「荏田」は東海道の裏街道にあたり、大山街道の宿場町として有名でした。現在もそのなごりの「荏田宿常夜灯」が田園都市線江田駅近くの民家の庭に残っています。ただ、田園都市線の駅名が「江田」なのでまぎらわしく思う人もいるかもしれません。「荏」の字が当用漢字にないため、かってこの地の豪族江田小次郎の名にちなんで「江田」としたといわれています。

「山田はヤマタと読む」

都筑区の北東地域には北・南・東を頭につけた「山田」の町があります。これは「ヤマダ」ではなく「ヤマタ」と読みます。山に田んぼがあったという説が有力ですが「矢股」と書かれた文献もあることから、早渕川にその支流が合流している地形からきているのではと思われます。ここは今も残る富士山信仰の富士塚（山田富士）と、7月にオープンした最新鋭の設備を誇る横浜国際プールが有名です。

「中川の不思議」

地下鉄の中川駅や、中川の町は西の方にあるのに、中川小学校や中学校だけは離れた東の中原街道の近くにあるのに気付いた方はいませんか。明治22年、大棚（おおだな）、牛久保、山田（やまた）、茅ヶ崎、勝田（かちだ）村が合併した時、中央を早渕川が流れていることから「中川村」と命名されました。昭和14年に横浜市に編入されるとき、旧大棚村の地域が二分され、大字上大棚が中川町に、下大棚が大棚町になりましたが、これは実は地元の人としては、学校がある下大棚を中川町とつけるつもりが、届け出に手違いがあったと伝わっています。「中川」にせよ、「都田」にせよ、明治の合併村の名称の歴史には興味深いものがあります。

「茅ヶ崎・勝田の地名」

早渕川の南に沿って茅ヶ崎と勝田の町があります。茅ヶ崎は湘南にある市名が有名ですが、小高い丘の突き出た所という意味で、全国にある地名です。中世の傑作といわれる「茅ヶ崎城」や、「幻の茅ヶ崎八景」については、昨年春の今昔物語に取り上げました。

勝田は「カチダ」と読みます。語源については、小さな谷の入り組んだ地形説や、早渕川の水利による優れた稲作を願った説などありますが、昔、「鍛冶田」と書かれたことから、製鉄に関係ある地名と思われます。

「地名を大切にする街づくり」

都筑の丘の散歩をしてきましたが、なんでもないような地名の一つ一つに思いがけない歴史が潜んでいることがお分かりいただけたでしょうか。都筑区のニュータウンでは、このような歴史と伝統を大切にする街づくりが進められ、「新しいふるさと」が生まれつつあります。



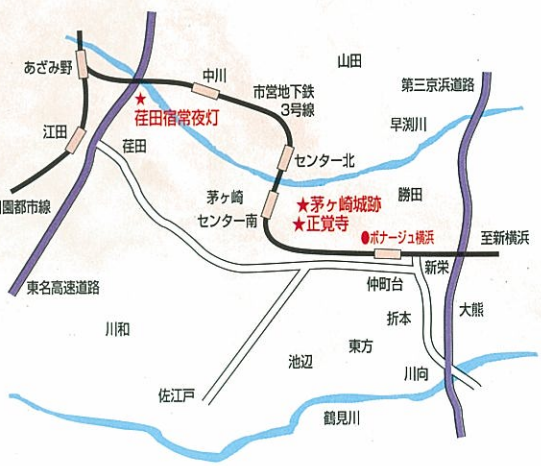
山田富士をデザインした歩道橋



茅ヶ崎城跡



正覚寺



港北ニュータウン

今昔物語

都筑の歳時記

■早渕川をかなでる会
福富洋一郎氏

都筑の丘では、昔からの伝統的な年中行事を、今でも見ることができます。港北ニュータウンの誕生、発展により、まちの姿は大きく変わりましたが、日本の原風景といわれる「どんど焼き」や「虫送り」、「秋祭り」など、子供の頃を思い出す行事が、今の子供達にも受け継がれ、賑やかに行われています。

また、「念仏講」なども、新しい街並のすぐ側で今も行われ、昔の姿を伝えてくれています。

今回は、いわば「都筑の歳時記」の一部をご紹介しましょう。

「子供達が喜ぶ、どんど焼き」

一月十四日は、「小正月」と呼ばれ、正月の松飾りや注連縄（しめなわ）などを燃やし、その火でモチや団子を焼いて食べて無病息災を願う、「どんど焼き」の行事が、都筑区内の至る所で見られます。（十五日の休日に実施するところもあります）

昔は、小さな谷戸（やと）と呼ばれる集落ごとに、子供を中心に、こじんまりと行っていました。三又になったカシやコナラの木の先に、赤緑白の団子を刺し、火にあぶって食べると風邪をひかないと言われていました。

現在は、人口が増えたので大勢でやることもあります。例えば、荏田南二丁目の牛ケ谷（うしがやと）運動広場では、十五日に五百人もの人が集まって、賑やかな火祭りが見られます。竹を細く切って、先にモチをはさみ、火で焼いています。中には、お芋やするめを焼いている人も見かけられます。

形は少しずつ変化しても、伝統行事はこうして人々に連綿として受け継がれています。

「念仏講と数珠（じゅず）回し」

毎月二十八日の午後、中川三丁目の老馬鍛冶山不動尊の本堂に、次々と人々が集ま



①老馬鍛冶山不動尊の念仏講と数珠回し。毎月28日に行われます。



念仏鉦と数珠



受け継がれる伝統行事

現在も都筑区内の各地では季節のお祭り、神社祭礼など、さまざまな伝統行事が行なわれています。予定は各神社、町内会にお問い合せ下さい。

（予定は変更される場合があります。）



ります。昔から毎月行われる百万遍念仏を奉誦する、念仏講に参加する人達です。

横浜市教育委員会から、無形民俗文化財「念仏」の保存団体として奨励証を授与されているこの念仏講は、メンバーが丸く座って大きな数珠を手に持ち、世話人の念仏鉦を叩きながら唱える「南無阿弥陀仏」の声に合わせ、数珠をゆっくりと右に回しながら念仏を口ずさむ行事です。

数珠は長さ七メートル近くもあり、結び目のところが回ってくると、軽く持ち上げて拝みます。鉦の音は、何かやわらかい温もりを感じます。私も先々月参加いたしましたが、その数珠を入れてある箱には、宝暦五亥年（一七五五年）八月吉日武州鈴木郡加名川領上大棚村と刻んでありました。おそらく、都筑郡神奈川領のことと思われます。

念仏が終わった後は、隣りの庫裡で、お茶を飲みながら、よも山話に花が咲きます。念仏講は、ある意味では地元の方々のコミュニーケションの場や、レクリエーションの場の役割りを果たしていたのかもしれません。

「復活した虫送り」

七月の土用入りの夕方に行われる伝統行事が「虫送り」です。戦前は、田んぼのある所どこでも広く行われていましたが、今は横浜ではほとんど見られません。南山田町が昭和五十二年に、川和町が平成六年に見事に復活させました。

もともとは、ウンカやズイ虫など、稲を食い荒らす害虫を村の外に追放し、豊作を祈る行事で、松明を両手にかかげながら、お囃子の笛や太鼓に合わせ「ヨーイ、ヨイ」のかけ声をかけながら、田んぼの周辺をねり歩きます。夕暮れの薄明かりの中に、炎がゆらめく様子は、初夏の風物詩として幻想的な気持ちになります。

お囃子の音色がもの悲しいのは、害虫とはいえ、いままでいっしょにいた虫を送ってしまう寂しい気持ちの表れだそうで、自然とともに生活をしてきた昔の人々が偲ばれます。

「賑やかな秋祭り」

秋はまつりの季節です。昔の村々では、それぞれ賑やかに祭が行われ、今日に引き継がれています。

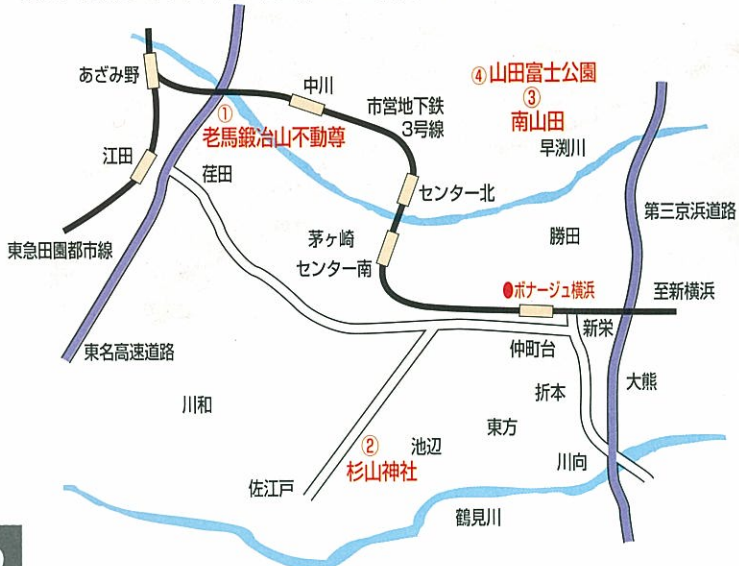
例えば、池辺町の杉山神社の例大祭では、総重量350キロもある御神輿が町をねり歩きます。さらに、花籠の舞と呼ばれる美しい踊りが、お祭りに花をそえます。美しい花籠を両手で持ち、バランスを取りながらクルクルと回します。黄色い帯にピンクのハチマキ。本当に楽しいお祭りです。

このように、都筑の港北ニュータウンには伝統のある楽しい歳時記がいっぱいです。

あなたも、新しい街で、古いものを発見してみませんか。



④山田富士公園のどんど焼き
小正月に都筑区各地で行われます。最近は環境問題に配慮してやや高さが低く作られる傾向に。





③復活した南山田町の虫送り
7月の土用の入りに行われる幻想的な風景。



②杉山神社の例大祭の花籠の舞
9月20日に開かれる池辺町杉山神社の御神輿の先導役。

港北ニュータウン

今昔物語

最終回

「都筑の街づくり」

■早渕川をかなでる会
福富洋一郎氏

10回続いた「今昔物語」も今回で最終回となりました。港北ニュータウンに住み始めて12年。新しい街にも、古い歴史と文化が息づいていることを知り、いい街に住んでいる幸せを実感しています。「今昔物語」を連載させていただいたご縁から「都筑の街づくり」について私が体験し、感じたことを述べてみたいと思います。

港北ニュータウンとの出会い

私は昭和62年、東京の世田谷から港北ニュータウンの真ん中に位置する葛が谷に引っ越してきました。環境の良い横浜北部に、ようやくマイホームを持つことができました。この地を選んだのは、田園都市線が日本橋のオフィスへの通勤に便利だったのが大きな理由です。それまではいわゆる会社一筋の人間でしたが、5年ほど前から休日は地域活動に参加するようになりました。

もともとこの地域は横浜市といっても関内・桜木町の「港ヨコハマ」から遠く離れ、多摩丘陵や下末吉台地を開発した「丘の街」です。私などは今でも中華街に行くときは「横浜に行ってくる。」というと、娘から「お父さん、ここも横浜よ。」言われてしまいます。今や、横浜市は人口340万人。大阪市より大きな都市になっています。

「横浜丘の手」の特色

最近、横浜北部の四区（都筑・青葉・緑・港北の各区）を「横浜丘の手」と呼んで市民と行政とのパートーナーシップによる新しい街づくりを目指す動きがあります。この四区は、平成6年11月に旧緑区と旧港北区が再編成されて誕生した新しい区です。もともとこの地域は奈良時代から昭和14年まで「都筑郡」と呼ばれていました。

都筑・青葉・緑・港北の四区は、土地柄が大変似ていますが、開発された時期によって少しづつ雰囲気が違います。私は、鉄道になぞらえると、それぞれの特色が分かることに気がつきました。緑区はJR横浜線が通っています。明治41年八王子で生産された絹製品を貿易港まで輸送する鉄道として、鶴見川沿いのルートが開けました。通勤用に活用されたのは比較的最近なので、まだ、沿線には昔の伝統や緑が残っています。現在の港北区は再編成により縮小され、東急東横線の沿線地帯となり昭和7年に東急東横線が全通。日吉・綱島・大倉山・菊名等の駅前を中

仲町台に最近オープンしたレストラン





せせらぎ公園



心に賑やかな街が発展しています。

そして青葉区は東急田園都市線です。昭和41年、溝の口・長津田間が開通し、丘陵地に美しい街が誕生しました。たまプラーザ・あざみ野・青葉台等には高級住宅が建ち並び東京から大勢の人が引っ越してきました。

最後は都筑区です。区内を横浜市営地下鉄3号線が貫いています。平成6年、新横浜からあざみ野まで延伸し、「港ヨコハマ」がぐっと近くなりました。

新しい鉄道に象徴されるように都筑区は若い区で、人口の増加率は横浜市で最大です。

横浜市の六大事業の一つである港北ニュータウン事業により、インフラの整備された近代都市に生まれ変わりました。しかし、東方・池辺・大熊等の農業専用地区にみられるように都市農業も盛んです。また鶴見川沿いの平野には、最新鋭の技術を誇る工業地帯も発達したバランスのとれた街です。

地域活動への参加

私は、港北ニュータウンに引っ越ししてしばらくは東京に顔を向けた会社人間の生活を続けていましたが、そのままではいわゆる「横浜都民」になってしまうのではないかと反省しました。歴史と地理が好きだった私は、五年程前から明治時代の地図を片手に都筑の丘を散歩し始めました。「今昔物語」でご紹介したように、茅ヶ崎城・杉山神社・早苗地蔵・大塚歳勝土遺跡等、遠くに行かなくても歴史的に興味深い名所をたくさん発見しました。そうしている内に地域に密着し、自然環境や歴史・文化を大切にしている市民グループに出会ったのです。



ボナージュ横浜「新緑10,000歩」案内役の福富氏（右側）



ボランティア活動中の福富氏

降った雨が流れ込む川の地域を「流域」と呼びますが、都筑の丘周辺はすべて鶴見川流域です。鶴見川は、昔は、谷戸（谷間のことを当地では谷戸という）の湧水（絞り水という）を集めた清流でしたが、大雨が降るとすぐ洪水になる暴れ川でもありました。急速な都市化の中で、コンクリートとフェンスで囲まれた都市河川となってしまいましたが、今でも貴重な空間を残し、魚・鳥・植物などの自然が息づいています。

都筑区の中央を流れる早渕川が、身近な自然の残る憩いの川辺となるように、市民の有志がクリーンアップや水環境調査、歴史ツアー等をやりながら、行政とともに「いい川づくり」を進めようと、5年前からボランティア活動を始めることになりました。私も当初から参加しましたが主婦や学生ばかりでなく、定年退職をした人や現役のサラリーマン族も参加するようになってきました。

都筑区には、このような市民の自主活動グループが、環境・文化・福祉等広い分野でびっくりするほどたくさんあり、活発に活動しています。また、町内会や自治会の組織もしっかりとしていて、お互いにネットワークづくりを組みながら街づくりに取り組んでいることが分かってきました。

詳しくは都筑区役所の生涯学習支援センター等でも情報を得られます。

新しい出会いを求めて

最近の都筑区の発展には目を見張るものがあります。例えば、私がニュータウンに来た頃の仲町台駅周辺は何もない草原でした。それが地下鉄ができ、駅前が賑やかになり、近くのせせらぎ公園、せきれいの道に続く緑道、茅ヶ崎公園等、あっという間に整備されました。

しかし、いくらきれいな街ができても、そこに住む人々が暮らしやすい街でなければ何もなりません。そのためには、皆ができる範囲で助け合い、街を良くしていくことが必要です。「横浜丘の手」なかんずく「都筑区」は、バランスのとれたポテンシャルの高いすばらしい地域です。昔から住んでいる人（実はその人達も長い歴史の中で新しく移ってきた人達です）も、最近やってきた人も新しい出会いの中で、21世紀に向かって、新しい街づくりのエネルギーに溢れています。皆さんも、自分たちの街を自分達で創るために地域活動に参加してみませんか。



都筑民家園

港北ニュータウン 誕生と歩み、そして未来

「街の誕生」

その昔、港北ニュータウンのあたりは、なだらかな丘陵や谷戸に開墾された水田、そして畑がひろがる横浜有数の農業地帯でした。その農村も、昭和40年代に入ると、急速に宅地化が進み、乱開発が始まりました。

横浜市は、無計画な住宅開発のスプロール化を未然に防止するために、「乱開発の防止」「都市農業の確立」「市民参加の街づくり」を基本理念とした街づくりを計画し、都市基盤整備公団（当時は日本住宅公団、その後、住宅・都市整備公団から現在の都市公団へ改組）をパートナーとして、港北ニュータウン建設事業に着手することになりました。

昭和49年、「施工面積1317ha、計画人口22万人」の街づくりに着手し、その後、経済や社会の環境が変化する中で、「住宅都市から多機能複合的な街づくり」を基本理念に加え、事業が進められてきました。

都市公団が施工する地区は、「みどりの環境を最大限保存する街づくり」「"ふるさと"をしのばせる街づくり」「安全な街づくり」「高いサービスが得られる街づくり」という4つの基本方針のもとに計画され、街づくりが進められました。

「街のいま」

港北ニュータウンには公園をはじめ運動広場・校庭・緑地などのオープンスペース、保存緑地・文化財・神社仏閣・屋敷林・樹木林など地域の歴史や貴重な緑の資源を体系的に連続させた緑道・歩行者専用道路のネットワーク「全長14.5kmのグリーンマトリックス」があり、計画された住宅地区・商業地区と相まって快適な住環境と緑豊かな街をつくっています。また、港北ニュータウンに接して230haの農業専用地区を設けました。この農地は景観や


開発前の港北ニュータウンの風景（北山田町・石原家）


昭和20年代の農家の初荷風景


昔の港北ニュータウンの風景


昭和40年代の勝田稲荷神社


街角の花屋（仲町台）


おしゃれなレストラン（仲町台）


プロムナード仲町台から見た港北ニュータウン

防災といった役割を持ち、「都市農業」と呼ばれています。

公園や住宅はもちろんのこと、各地区ごと・市営地下鉄駅ごとに、毎日の暮らしに身近で便利な商店街があります。そして、地下鉄センター南駅とセンター北駅の周辺には、デパート、ショッピングセンター、映画館や区役所などのいろいろな施設が建ち並ぶタウンセンターがあり、「横浜の副都心」として発展し続けています。

また、小・中学校・高校や私立学校、大学などの教育機関はもちろん、ふれあいの丘温水プール・運動施設、横浜国際プールなどのスポーツ・レクリエーション施設や住民どうしの交流の場「地区センター」、高齢者のための地域ケアプラザ・訪問介護ステーションなどの施設が整備され、「高いサービスが得られる街づくり」を実現しているのです。

港北ニュータウンには、多くの企業も進出しています。住環境と調和した研究所や研修所がほとんどで、外資系企業が多いのも特長です。さまざまな顔を持った街の姿こそ、活力のある街といえるでしょう。

「街の未来」

平成6年、都筑区が港北区・緑区から分区して、誕生しました。東には国道246号線・東名高速（横浜青葉インター）、西には第三京浜（都筑インター）が位置し、南は鶴見川、北は川崎市と接しています。

平成8年には、港北ニュータウン建設事業（土地区画整理事業）が完了しました（中央地区は事業継続中）。都市の器づくりが完了したのです。

今では、そこに暮らす人々、さまざまな企業や施設に働く人々、訪れる人々、デパートなどでショッピングを楽しむ人々、学生・子どもたちなどさまざまな世代が集い、行き交い、賑わう姿を見ることができます。

優れた立地条件・交通アクセスと自然環境、住みよさ・暮らしやすさのあふれる都筑区港北ニュータウンは、これからも人々を迎え入れ、集い、そして、進化していきます。


せせらぎ公園とプロムナード仲町台


仲町台駅前のプラネタリウム


都筑中央公園のモニュメント

人と歴史・文化

古代のまちから現代の街へ、港北ニュータウンは都筑の歴史を甦らせました。





出土品





大塚・歳勝土遺跡公園



横浜市歴史博物館

新しくつくられた街だから、古い歴史や文化などとは無縁だと思ってはいませんか。

都筑区港北ニュータウンは、歴史と文化にあふれる街です。「都筑」という地名は古く、万葉集の中に見ることができます。律令国家の時代から昭和14年の横浜市編入まで、この辺りは都筑郡と呼ばれてきました。「都筑」の由来は、美しい丘陵と谷戸が続いているところから「つづき」そして「都筑」となったともいわれています。

都筑の地は、西は多摩丘陵、東は下末吉台地につらなる丘陵地帯が続き、それに切り込むいく筋もの谷戸には湧水とそれを源とする川が流れ、約2万年もの前から人々の生活が営まれていました。縄文・弥生時代の遺跡が数多く存在することからも、そのことがうかがわれます。

港北ニュータウン建設事業によって、268カ所約89haの埋蔵文化財が発見され、縄文時代の佐江戸遺跡、弥生時代中期の大塚・歳勝土遺跡などが歴史公園として保存されています。佐江戸第2遺跡は楕円形で、8本の主柱穴が整然と2列に並び、壁構内にも左右対象にピットが配された他に例のないものです。また、大塚・歳勝土遺跡は環濠集落とそこから100mほど離れた墓地からなっており、学術的にも非常に貴重なものです。これらの遺跡から発掘された17000箱におよぶ土器などの出土品は横浜市ふるさと歴史財団（勝田町）や横浜市歴史博物館（センター北駅近く）に収蔵されています。

律令時代には郡の役所（江田駅近く）が置かれ、古東海道が走り、付近の政治・経済の中心地として栄えました。中世になると関東から鎌倉へ向かう鎌倉街道が通り、茅ヶ崎城をはじめとする城が築かれています。

近世には中原街道、大山街道などの街道を人々が行き交うようになり、大山街道の一部が中川に保存されています。明治時代の都筑郡には12の村があり、川和町に郡役所が置かれました。現在の都筑区は、その内の4つの村（中川村、都田村と山内村・新田村の一部）からなります。そして谷戸ごとに集落が点在し、そこに住む人々は丘や谷戸の自然の恩恵を存分に受けて、暮らしを営んでいました。

集落には、鎮守の社やお寺があり、それらの信仰がさまざ



工事中は移動された「いぼとり地蔵」


都筑民家園


せせらぎ公園・古民家


東山田郷土資料館
都筑区東山田町1362-1／水曜のみ開館


栗原満直さん


昔の山田富士


現在の山田富士

まな風習をつくり、多くの伝統文化を育みました。富士信仰が盛んで、その信仰の対象として富士塚も作られました。山田富士をはじめ3か所の富士塚が港北ニュータウンに残されています。

開発が始まる前のこのあたりは、日本のあちこちにある田園風景と同じようなものでした。村々の神社のお祭り、四季折々の催し物や伝統芸能なども引き継がれてきました。一方、戦後の高度経済成長、大都市の巨大化と過密化は、横浜市においても同様で、昭和30年の114万人から昭和40年には179万人にと人口が急増し、既成市街地の過密化と周辺の農地や丘陵の乱開発をもたらし、生活環境の悪化が急速に進み始めました。

こうした状況が、この農村地帯にも現れたのです。港北ニュータウンは、この乱開発に対して、"緑の環境を最大限に保存する""ふるさとをしのばせる"街づくりとして、計画され、事業が始められたのです。今では、都筑民家園（センター北駅）、せせらぎ公園古民家（仲町台駅）に旧家や農家が保存され、昔の風習などに触れることができます。

栗原満直さんが主宰する東山田郷土資料館には、港北ニュータウンが誕生する前の民具や古文書、農機具、生活用具など5000点が収集され、展示されています。栗原さんは「港北ニュータウンの開発が始まって、古い生活用品や農機具などを処分している場面に出会い、古いものがどんどん失われてしまう、失ったらもう戻らないと思って、これらを貰い受け、収集してきました。皆さんにこの辺りの昔の暮らしを知ってもらいたいし、古いものの良さを感じとっていただきたい。そして次の世代に伝えていきたいですね。」と話しています。

四季を彩る行事

春


花祭り
4月8日に行われる山田富士公園の花祭り

夏

虫送り
7月の土用の日に行われます。稲につく害虫を追い払うための行事で、夕方おおぜいの人がたいまつを持ち、お囃子に「よーい、よい」と声を合わせながら、田んぼの周囲を回ります。戦前は各地で行われたもので、南山田と川和で復活しました。夕暮れの薄明かりのなかにゆれるたいまつの炎とお囃子のもの悲しい調べが幻想の世界に誘います。



秋


花籠の舞
9月20日の池辺町杉山神社秋祭りの神輿を先導する「花籠の舞」は華麗です。

冬

どんど焼き
1月14日の小正月に、正月飾りを燃やし、その火で餅や団子を焼いて食べて、1年間の無病息災を願います。



人と自然

“ふるさとを”しのばせる街、緑あふれる街
港北ニュータウンは、暮らす人に自然を身近に感じさせてくれる街です。





「涼・セミ時雨」 湧水を集めた池やせせらぎの音に緑の木陰。涼風がさっと吹き抜ける感じがします。

夏


せせらぎ公園の睡蓮


緑道


早渕川


御手洗池

新しくつくられた街の自然は、どのようなものだとお思いですか。やはり「作りものの自然」ではないかと思っていませんか。

「港北ニュータウンの良さは自然が豊かなこと」と、この街で暮らす人々は声をそろえて言われます。それは、港北ニュータウンが“ふるさと”をしのばせ、みどりを最大限保存する…自然との調和をテーマとして作られた、計画された街だからです。

昔、人々の暮らしは、自然とともにありました。現代においても人々は自然とともにある暮らしを求めています。かつてこの辺りは、雑木林と竹林に覆われた丘陵地帯と丘陵に切れ込んだ谷（谷戸）で、谷戸の至るところに湧き水があり、その湧き水は池や沼や幾筋かの小川となり、早渕川・鶴見川に注いでいました。これら水辺は多くの生き物の生息の場であるとともに、人々の暮らしの場でした。人々は雑木林や竹林、谷戸に開けた田畑での農業による暮らしを営んでいました。

港北ニュータウン茅ヶ崎東に生まれ育ち、いまもそこでスーパー三越などを営んでおられる田中孝長さん（仲町台商業振興会会長）は「子どもの頃、この辺りは水田や畑のある谷戸で、家の裏には小川が流れていて、月夜には鰻獲りができたんです。そこここに茶畑もあって、自分の家で飲むお茶は自家製でしたね。周囲は雑木林。タヌキやイタチ、野ウサギも棲んでいたんですよ。」と話されています。


田中孝長さん

こうした自然を活かした街づくりの試み。それを実現したのが「グリーンマトリックスシステム」です。「グリーンマトリックスシステム」は、公園を始め、運動広場・校庭・緑地などのオープンスペース、文化財・保存緑地・神社仏閣・屋敷林・樹林地など、歴史を保つ貴重な緑の資源を、歩行者専用道路・緑道で結びつけながら体系化し、レクリエーション活動ができる仕組みとなっています。

公園の約半分はニュータウンの開発以前からある地形や植生を活かしました。緑道は谷戸の景観を残し、斜面緑地を活かすなどの工夫がなされ、せせらぎを設け、緑と水が一体化した豊かな自然空間をつくり出しています。この緑道や歩行者専用道路の総延長は14.5Kmに及んでいます。


杉山神社


都筑中央公園

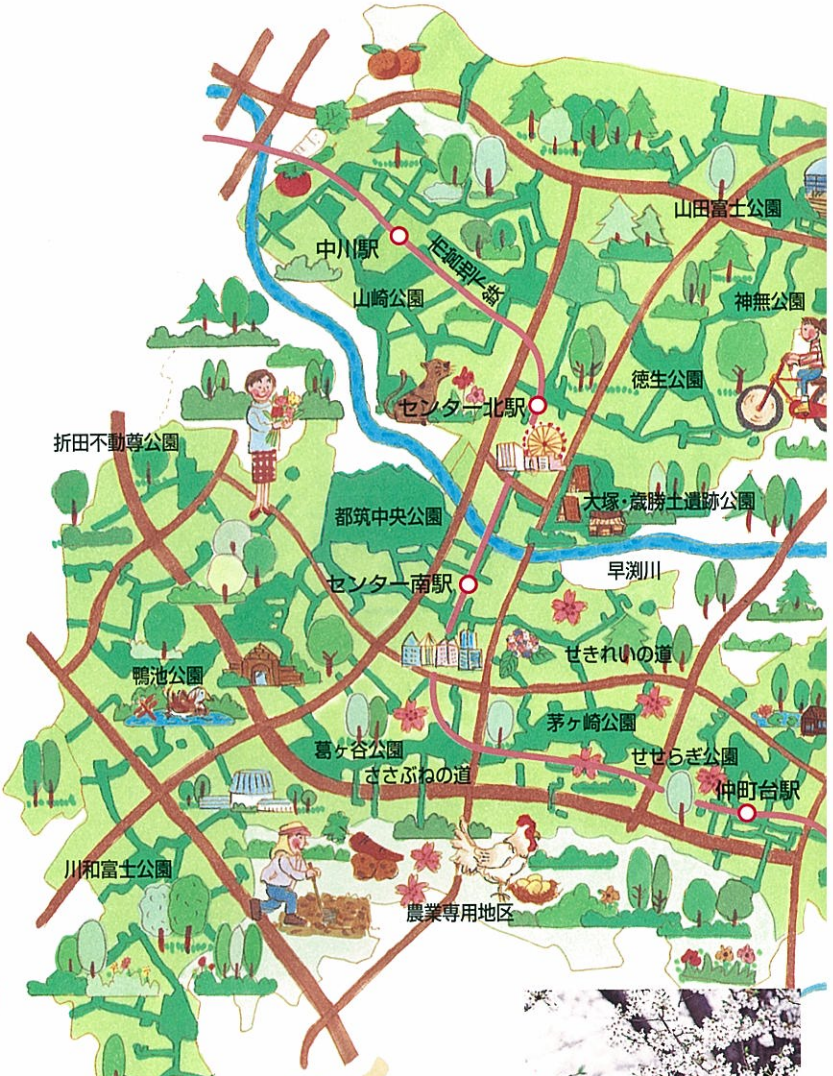
例えば、市営地下鉄仲町台駅近くの「せせらぎ公園」（特に初夏の睡蓮がみごと）を起点に緑道をしばらく歩くと「茅ヶ崎公園」。ここには豊かな水量の御手洗池の湧水があり、せせらぎとなって「せせらぎ公園」へ……という具合です。

せせらぎ公園の中にある「古民家」の館長新田弘子さんは、港北ニュータウンの自然のすばらしさをこう話しています。「せせらぎ公園『古民家』の周辺には四季折々楽しめるものがたくさんあります。春は野草の宝庫。さまざまな食べられる植物を摘んでてんぷらにしたり、おひたしにしたりすることができます。それから竹の子もニョキニョキ。夏はセミの声がうるさいほど。カブトムシを探すこともできます。秋になればキノコが顔を出します。古民家ではこれらの自然の恵みをさまざまなイベントに取り入れて皆さんに喜ばれています。都会の中とは思えない田舎体験のできるすばらしいところですよ」。


新田弘子さん

港北ニュータウンのもう一つの自然、それは農業です。ニュータウンの建設に伴って、それまでの農地が新しい街に生まれ変わりました。それと同時に周辺に農業専用地区が設けられ、都市農業が誕生しました。それはこの街に暮らす人々にとって“ふるさと”をしのばせる風景です。また毎日曜日「地元でとれた農産物でいっぱいのふれあい朝市（都筑ふれあいの丘）」なども催され、住民の方々で賑わっています。


農業専用地



「紅葉」 雑木林の多いニュータウンはそのまま紅葉の名所です。

秋


東山田郷土資料館

春


牛ヶ谷公園の桜

「新生」 周囲の雑木林が一斉に芽吹きます。緑の季節、花々も豊かな彩を添えます。

冬

「春を待つ」 春を待ちかねたように、霜の中から野草の芽が顔を出し、ささんか、梅の花などが早くも花を咲かせます。


鴨池公園の竹林


東方天満宮の梅

都筑「区の木」
里山の木：ヤマモミジ、ヤマザクラ、コナラ、シデ
人里の木：さるすべり、モクセイ、ウメ

人と街

進化する街、成長を続ける街
港北ニュータウンは、暮らす人、集う人に高いサービスを提供します。




センター南駅


中川駅


センター北駅前広場

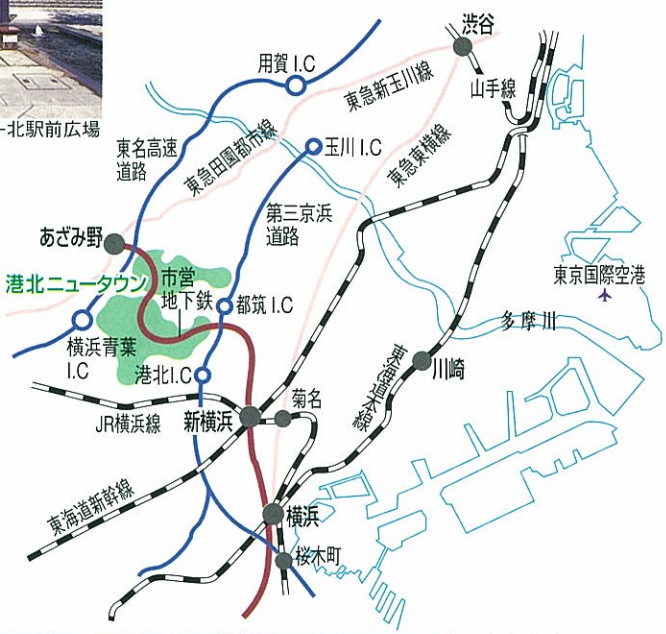
ニュータウンというと、どのようなイメージを抱かれるのしょうか。「ベッドタウン」のようなイメージでしょうか。

港北ニュータウンは、「住宅都市」、「ベッドタウン」ではありません。

「みどりの環境を最大限保存」し、「ふるさとをしのばせる」、「安全」で「高いサービスが得られる」街として、商業、業務、文化、スポーツ・レクリエーション・医療・福祉等の施設が集積する「多機能複合都市」として計画され、街づくりが進められてきました。

タウンセンター地区・中央地区は計画総面積96.5ｈａ。新宿副都心をしのぐ規模で、横浜の副都心、老若男女さまざまな世代が集う街として、着々と事業が進められています。

また、古くからの自然や文化・歴史を活かし、そして現代を融合させ、未来へ引き継がれる街として計画されているのです。




横浜市営地下鉄


新幹線・新横浜駅

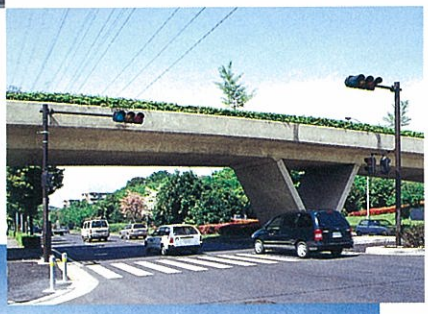

第三京浜都筑インター

港北ニュータウンの交通

港北ニュータウンは、西側に東急田園都市線と国道２４６号線、東名高速（横浜青葉インター）が、東側には東京と横浜を結ぶ第三京浜（都筑インター）が、南側にはＪＲ横浜線が走っています。また、ニュータウン内を横浜市営地下鉄が走っています。横浜市中心部から新幹線新横浜駅を経て、ニュータウン


タウンセンターを走る幹線道路


グリーンマトリックス


グリーンマトリックスの下を走る幹線道路


緑の環境と安全を守るグリーンマトリックス

内の4つの駅（仲町台、センター南、センター北、中川）を結び、東急田園都市線あざみ野駅へとつながっています。さらに東急東横線日吉駅から港北ニュータウンを抜け、JR横浜線中山駅へつながるもう一つの鉄道計画があります。この計画ではニュータウン内にセンター北駅・センター南駅で2路線が並行し、北山田と葛が谷に新駅・駅前広場が予定されています。

このように恵まれた交通条件・立地にあるばかりではなく、ニュータウン内には東西に3本、南北に5本の都市計画道路・幹線道路があり、国道や高速道路、都心部などと容易にアクセスできるのです。

バス路線もニュータウン内外に張りめぐらされています。市営地下鉄各駅・各地区と東急田園都市線の近隣の駅をはじめ、横浜線中山駅などのJR駅や東急東横線綱島駅を結んでいます。

ニュータウン内のアクセスは、幅9mと6mの区画道路が設けられ、幹線道路から通過する車が入り込まないように設計されています。また、歩行者専用道路が設けられており、学校や公園、ショッピングゾーンやバス停・駅などと住宅地を結び、安全で快適な「歩行者生活軸空間」を確保しています。


仲町台駅前バスターミナル


山田富士を型どった横断陸橋


仲町台駅

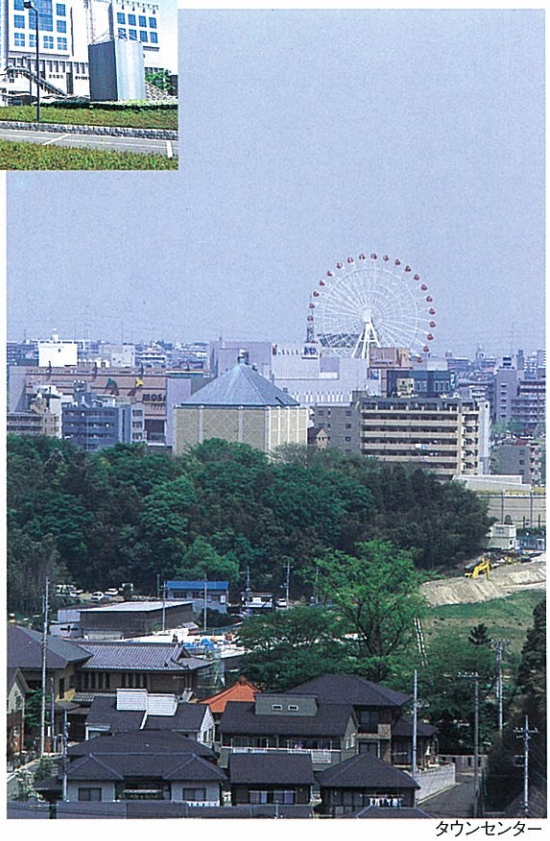

「すきっぷ広場」での区民祭


ショッピングタウン「あいたい」



モザイクモール港北


バインクリエイトビル


タウンセンター

タウンセンター

港北ニュータウンの中心は、センター南駅・センター北駅を中心に広がるタウンセンター。現在、これら南北のタウンセンターを結ぶ中央地区の建設が進められています。

このタウンセンターと中央地区は、港北ニュータウンのセンターとしてのみならず、横浜の副都心、さらには首都圏域まで視野に入れた広域拠点として、行政、商業、業務、文化などさまざまな機能の複合的な集積が図られる街へと変貌を続けています。

横浜市の「ゆめはま2010プラン―新開国都市宣言」には、横浜市の街づくりの理念や目標を示した長期ビジョンと具体的な事業の内容・計画が掲げられていますが、1997年度から2001年度までの「5カ年計画」の重点的な施策のひとつとして、このタウンセンターを横浜市の都市機能を補完する副都心として位置付け、街づくりを推進するとしています。

さまざまな人々が行き交う街として、知的・文化的消費を支える生活文化拠点・情報発信の街として、そして横浜市の「業務施設集積地区」指定による企業の活動の場として、タウンセンターは着実に発展・進化しています。

現在、センター南駅周辺には、都筑区総合庁舎はじめ行政サービスの施設が集中しています。また、駅前には東急デパートを中心とした78の専門店やレストランなどが入る港北東急百貨店S.C.があり、その5～6階には7つの映画館（シネマコンプレックス）があるほか、大型電器店や書店、アスレティッククラブその他大型店がなどが軒を並べています。駅前にある野外ステージ「すきっぷ広場」では、音楽会や演劇などさまざまなイベントが行われています。

センター北駅前には、駅と直結して生活便利館「ショッピングタウンあいたい」があり、銀行、スーパーをはじめベーカリー、ファーストフードやボウリング場などアミューズメント施設が揃い、家族で楽しめるスペースとなっています。

また、大きな観覧車がひときわ目を引く大型ショッピングセンター「モザイクモール港北」がオープン。阪急百貨店をキーテナントとして、84の専門店と22のレストランなど126の店舗が揃う
















タウンセンター


東急百貨店S.C.

ショッピングモールとなっています。「自然に親しみ、自然の大切さを知り、自然の豊かさを楽しむ」ライフスタイルを提供し、ニューファミリー層からシニアカップルなど成熟世代層まで、郊外に住みながら都会的な感覚をもった人々の多彩なニーズに応えるショッピングモールです。

モザイクモール港北・都筑阪急が、第1次商圏を「3㎞圏・ニュータウン地区」、第2次商圏を「7㎞圏・車で30分の周辺エリア」として横浜市の北部全域と川崎市を含んだ広いエリアを想定しているように、タウンセンターは広汎な地域のさまざまな世代が集い、行き交い、賑わう街として、羽ばたいているのです。

駅前センターと近隣センター

港北ニュータウンには、市営地下鉄仲町台駅と中川駅そして鉄道計画にある「北山田」地区と「葛が丘」地区の新駅、合計4カ所の駅前センターと呼ばれる商業ゾーンと、6カ所（茅ヶ崎、佐江戸、江田、新吉田、東山田、牛久保）の近隣センターと呼ばれるエリアがあります。

駅前センターは駅を利用する人々の居住圏を対象として、日常的なサービスや生活用品を提供するショッピングゾーンで、それぞれ駅前広場とモニュメントを中心に、特色ある商店街づくりが進められています。例えば、仲町台駅前センターは宇宙がテーマ。地下鉄高架下には星空を浮かび上がらせるライトアップと霧噴水が設けられており、駅前広場を中心に商店街が広がっています。この街づくりのテーマは緑に恵まれた環境を生かした「自然と人間」。そして「ネオクラシック」をデザインテーマに、「花」をふれあいテーマに、というようにおしゃれな街並みをつくっています。

近隣センターは毎日の暮らしをカバーする、もっとも身近なショッピングエリア。それぞれのセンターが特徴的な街づくりをしています。例えば、茅ヶ崎の近隣センターは幹線道路に接していることと緑豊かな環境を生かして、「マーケットタウン」を街づくりテーマ、「アーリーモダン」をデザインテーマとして、より広い商圏を背景としたセンターづくりを目指しています。


近隣センター


ニュータウンの住宅街









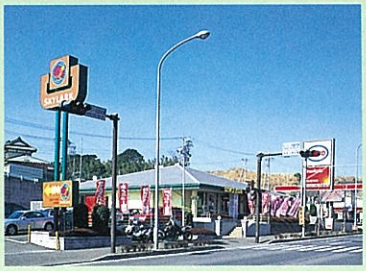
駅前センター

ロードサイドショップ











ロードサイド・ショップ

各センター以外に、ニュータウン内を東西あるいは南北に走る主要幹線道路沿いには、ガーデニング専門店や周辺最大規模を誇るペットショップ、モデルハウスや住関連ショップの「ハウスクエア横浜」、おもちゃなどを揃える子供用品専門店「スーパーキッズワールド」など大型のロードサイドショップが品揃えの豊かさと低価格を競っているほか、コンビニエンスストア、ファミリーレストランやハンバーガーショップなどのファーストフード店、DIY、自動車ディーラーなどが建ち並んでいます。



このような大型店だけではありません。ブティックやベーカリー、各種専門店やレストラン、シックでおしゃれ、ハイセンスなショップがあちらこちらにたくさんあり、暮らしに潤いと彩りを添えています。

港北ニュータウンのさまざまなショップは、ハイセンスでおしゃれな雰囲気と庶民的な雰囲気を兼ね備えており、気軽にショッピングを楽しむことができます。

行政サービス施設

市営地下鉄センター南駅周辺には、都筑区の行政のセンターとして、各種行政機関が集まっています。都筑区総合庁舎は区役所の窓口のほかに消防署も併設。また、公会堂、展示場、図書館などもあり、多くの人々に利用されています。

都筑、仲町台、中川西、北山田には「地区センター」があります。地区センターは、市民の交流の場として、会議室や体育コーナー、工芸室、音楽室、図書コーナーなどを備え、各種講習会やサークルの集まりなどに利用されています。

教育機関として、幼稚園、小学校、中学校、高校のほかに、二つの大学があ



都筑区総合庁舎



公会堂



仲町台地区センター



都筑警察署


つづきふれあいの丘


東京横浜ドイツ学園


横浜国際プール

ります。特に、東京・横浜ドイツ学園は国際性に富んだ港北ニュータウンを象徴する学校です。

健康とリフレッシュ、スポーツのための施設もたくさんあります。国際競技も可能な「横浜国際プール」、ごみ処理工場の余熱を利用した「都筑ふれあいの丘温水プール」、多目的運動広場のほか、少年野球場やスポーツ会館などがあります。

また、保育園をはじめ障害者保養研修センター、北部地域療育センターなどの福祉施設や病院・診療所も多数あり、センター南駅そばには昭和医大横浜北部病院が建設中です。

シニア世代のための施設、ケア施設も充実しています。都筑ふれあいの丘の老人福祉センターつづき緑寿荘や、特別養護老人ホーム・中川の里、地域ケアプラザなどがあり、シニア世代の生活を支えるサービスを行っており、シニア世代の暮らしを応援しています。

このように多種多彩な施設とサービスがあり、子どもからシニア世代まで安心して暮らせる街となっています。

企業

港北ニュータウンは"住"だけの街ではありません。多機能複合都市として、企業も街づくりに欠かすことができません。

この街の優れた立地条件・環境を生かして、情報産業、デザイン産業などの先端技術産業、外資系企業が多数進出しています。それらは周囲の居住環境と調和した研究所や研修所、事務所などの施設となっています。

そして、事業所内の施設や敷地を開放したり、市民参加の行事や催しを支援するほか、さまざまな企業メセナを展開する企業もあり、積極的にこの街に暮らす人々、はたらく人々との共存を図っています。



ナムコ


ジェトロニクス・オリベッティ


サカタのタネ

人と人

さまざまな世代が集い、行き交う街
港北ニュータウンは、人と人が結びつき、交流し、いきいきと暮らす街です。





福富洋一郎さん



早渕川の魚とり



公園愛護会・萌芽更新作業

人々の"暮らし"があってこそ街といえるのではないでしょうか。

この街は、港北ニュータウンができる前から暮らしている人、新しい街に移り住んできた人がともに暮らす街です。人と人がいきいきと暮らす街、はたらき、学び、交流する街。港北ニュータウンはそんな街へと成長しています。

都筑区民の平均年齢は約35歳。横浜市で最も若い街で、若い世代どうしやシニア世代どうしの、また世代をこえて、さまざまなサークル・交流の場が生まれています。

ボランティア団体のひとつ『早渕川をかなでる会』世話人代表で『今昔物語』の筆者でもある福富洋一郎さんは「都筑区にはテーマコミュニティーと呼ばれる環境、福祉などのボランティア活動や音楽・文化、趣味の活動をしている団体が200団体以上あります。区役所の



きれいな街づくり「さわやか運動」



地区センターの講座



つづき人・交流フェスタ



区民文化祭



区民まつりのパレード



星空のコンサート



茅ヶ崎八木節保存会



古民家・夏休みぞうりあみ教室



生涯学習支援センターで
打ち合わせするボランティアグループ

●港北ニュータウン「人・街・暮らし」公団のまちづくり



ヨコハマ・都筑ミュージカル制作上演委員会「手づくりミュージカル」



都筑民家園・津軽三味線コンサート

生涯学習支援センターに問い合わせると親切に相談にのってくれます。区の地区センターにもサークル・グループがいろいろありますから、ちょっと踏み出せばいろいろなことができますよ」と言われています。

また、市民参加のミュージカル上演やコンサートなどのいろいろなイベントにたずさわる『都筑クラブ』会長の山田美千子さんは、「皆でイベントをしていると、自然と世代間の交流ができます。いい人がいていい街ができると思います。いきいきした素敵なシニア世代が多いということになれば、若い人達も自分達もあんなふうにオシャレに生きたいと思うでしょうから。ひとりひとりが輝ける街づくりを目指し、未来に何かを残せる、そんな活動をしていきたい」と語っています。

仲町台商業振興会会長の田中孝長さんは「住んでいる人が互いに気軽に声を掛け合う雰囲気をみんなでつくっていきたい。振興会では月1回ですが、さわやか運動ということでごみ拾いをやっています。そんな時『お疲れさま、ご苦労さま』とひと声かけてくれると、うれしいですね。そんなことからふれあいが始まり、ひいてはポイ捨てのない街、治安のよい街ができるんじゃないかな」と街づくりへの思いを話されます。



山田美千子さん



つづきポップフェスティバル

こうしたサークル・ボランティア団体の活動を都筑区役所がバックアップしています。都筑区役所では、生涯学習活動として、区民の自主的企画による、高齢化、子育てなどに関する連続講座を開催しています。また、区の生涯学習支援センターでは、生涯学習活動の相談・情報提供、機材貸出しや交流の場の提供などを行っているほか、「ボランティア活動をしたい方・グループ」と「ボランティア活動を必要とする方・グループ」の橋渡し（ボランティアバンク）も行っています。

地区センターのひとつ、仲町台地区センターでは、区民の方・グループの自主活動のほかに、地区センター主催の講座として「健康体操・レク教室」「はじめてのワープロ教室」などを催しています。また、都筑民家園では味噌づくり講習会、落語会など、せせらぎ公園「古民家」では炭焼教室、豆まき大会など、盛り沢山の催しが1年を通して開催され、好評を博しています。

高齢者会食サービス、送迎、機能訓練教室のお手伝いや保育・手話などの福祉活動を行っている福祉ボランティア団体も20以上あります。これらのことからわかるように、趣味のサークル、スポーツ、文化・芸術、伝統芸能のサークル・団体、街づくりを学び活動するボランティア団体など、多種多彩なサークル・ボランティア団体が活発に活動しています。

この街に暮らし、はたらく人々が知り合い、つながり合う自治会や町内会、生涯学習や趣味・スポーツ、ボランティアの活動と交流から、いきいきした街が生まれ、成長するのではないでしょうか。



センター北駅前広場フリーマーケット

人と住まい

さまざまな住まいが融合する街
港北ニュータウンは計画された街ならではの
優れた住環境を兼ね備えた街です。





「プロムナード仲町台」メインエントランス



戸建住宅の街並み

住まいがあってこそ
私たちの暮らしは成り立って
いるのではないでしょうか。

港北ニュータウンでは、戸建住宅等の「一般住宅地区」とマンション等の「共同住宅地区」など、地区別に建物用途や形態制限等が定められており、快適な住環境の確保が図られています。

港北ニュータウンの団地・マンションの第1号は、昭和58年に入居した都市公団の分譲「けやきが丘(440戸)」、みずきが丘(388戸)」、県公社の分譲「かしの木台ハイツ(266戸)」、市公社の分譲「しいの木台ハイツ(310戸)」の4物件。今では数多くのマンションや戸建住宅、公団住宅が建ち、美しい街並みを見せています。

「21世紀初頭には国民の4人に1人が65歳以上の高齢者」になると予測され、今日、高齢者が安心していきいきと暮らせる社会を目指して、居住環境を整えることの重要性が指摘されています。こうした長寿社会に対応した住まいの試みを、都市公団のプロムナード仲町台(総戸数約800戸)に見ることができます。それは「交流」をテーマに、さまざまな世代が交差するふれあいのライフステージとして計画されています。駅前立地とグリーンマトリックスの緑を背景に賃貸・分譲とシニアのための住宅、そしてシニア住宅併設の介護施設が一体的に配置され、中心には大きなオープンスペースのコミュニティ広場と内外に抜ける歩行者専用道路のシンボルロードが設けられています。とくに、コミュニティ広場へ続く正面階段の開放的で、おしゃれな雰囲気は、仲町台の「街の顔」のひとつといわれています。

プロムナード仲町台にあるシニア住宅ボナージュ横浜は、都市公団のシニア住宅第1号で、シニア世代が末永く自立した生活ができるように配慮された住宅と、趣味や交流のための豊富な集会室などのスペースがたっぷりと設けられています。また、建物内にクリニック・薬局やレストラン、美容室が開設されており、ボナージュ横浜の入居者の方だけではなく、一般の方の利用もできるようになっています。このような先進的な都市公団の住まいづくりをはじめ、民間の大規模分譲マンションや大小さまざまな分譲・賃貸マンションが街のあちこちに建設されている一方、戸建住宅が良好な住環境の中に立地しています。

港北ニュータウンの住まいは、マンションなどの集合住宅ゾーンと戸建住宅ゾーンが融合され、魅力ある街並みをつくり出しています。とくに、近年のマンションや戸建住宅は、住宅性能も向



シニア住宅「ボナージュ横浜」

●港北ニュータウン「人・街・暮らし」公団のまちづくり



ビュープラザセンター北



港北ニュータウンまちづくり館



みずきが丘



コンフォール城山の丘

上し、外観もおしゃれ。交通アクセスや緑に恵まれた住環境、デパートなど便利なショッピング、もちろん子供たちのための学校や公園・遊び場もと、ファミリー層を中心に人気の街になっています。あらゆる世代の人々が暮らしやすい住まい、お互いに交流し、ふれあいながら暮らす街、そんな街として、港北ニュータウンは成長しています。

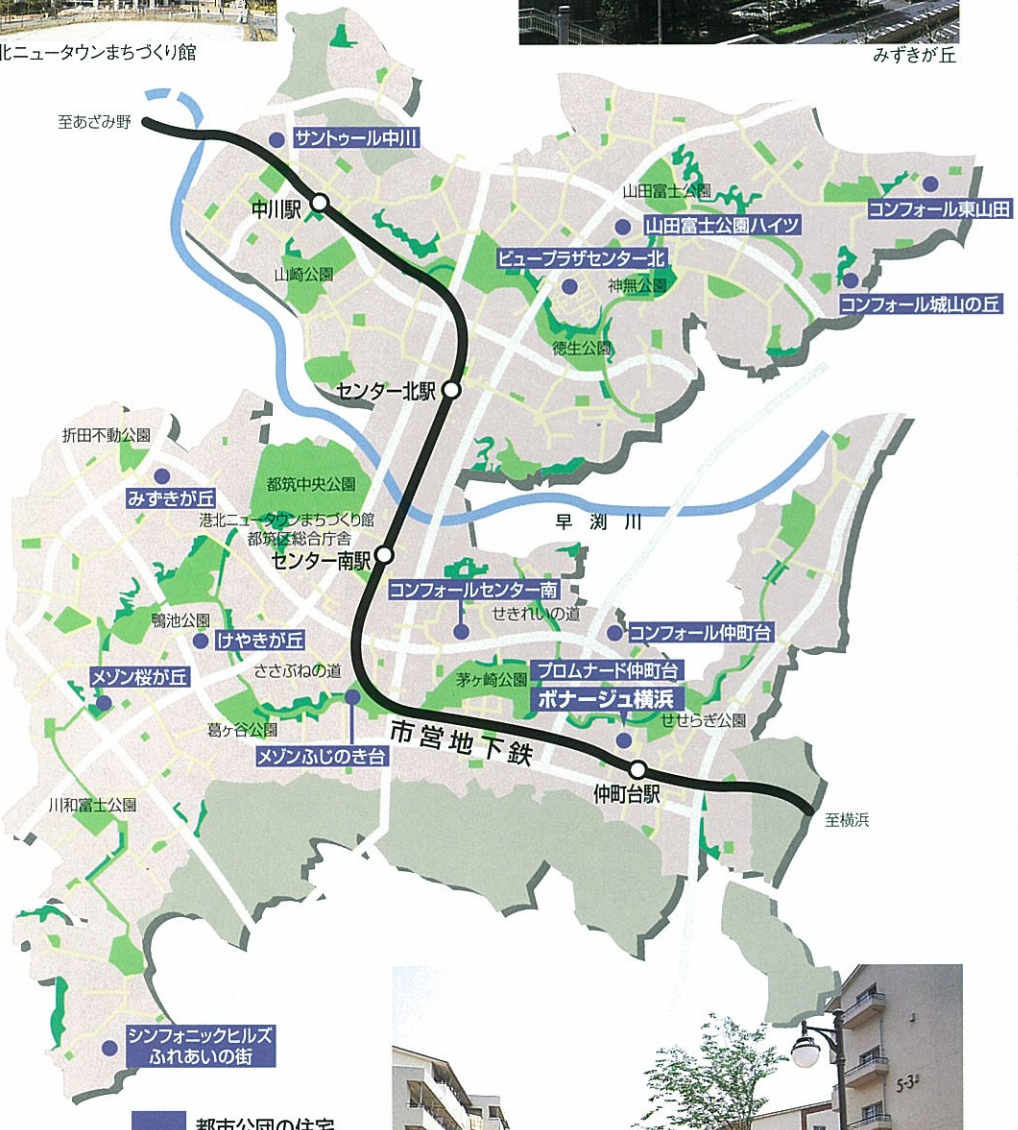


山田富士公園ハイツ





コンフォール東山田





港北ニュータウンの公団住宅のお問い合せ
港北ニュータウン総合案内所・空家相談コーナー

TEL.045-944-3310

シニア住宅ボナージュ横浜募集のお問い合せ
ボナージュ横浜現地案内所

0120-56-5771
フリーダイヤル

受付時間/午前10時～午後5時（土・日・祝日も受付。水曜定休）
市営地下鉄仲町台駅下車徒歩1分　パルスポット仲町台
〒224-0041　横浜市都筑区仲町台1-4-2

公団住宅の募集のお問い合せ
都市公団神奈川地域支社募集課
TEL.045-682-1666
（定休日/土・日・祝日）
〒220-6110　横浜市西区みなとみらい2-3-3
クイーンズタワーB棟8階（桜木町駅徒歩10分）

発行　都市基盤整備公団神奈川地域支社 居住環境整備・再開発部

企画・制作　（財）高齢者住宅財団住宅管理部
〒107-0052　東京都港区赤坂3-21-20赤坂ロングビーチビル
TEL.03-3583-4165

NK・EV-00・06・3000